

八尾市家庭ごみに関するアンケート調査結果  
報 告 書



平成20年2月

八 尾 市

## 第1章 調査の目的と方法

1-1	調査の目的	1
1-2	調査の方法	1
(1)	調査対象	1
(2)	配布・回収方法	1
(3)	調査日程	1
(4)	調査項目	1
1-3	回収状況と回答者の概要	2
(1)	回収状況	2
(2)	回答者の概要	2

## 第2章 調査の結果

2-1	日常的に実践している、ごみ減量化・リサイクル行動について	5
2-2	指定袋制について	7
(1)	指定袋制導入による、ごみを出す場合の考え方や行動の変化	7
(2)	排出ルール徹底のための地域での取り組み	8
2-3	粗大ごみについて	9
(1)	粗大ごみ受付センターの利用状況	9
(2)	粗大ごみ電話予約制導入による、ごみを出す場合の考え方や行動の変化	10
2-4	現在の分別収集について	12
(1)	現在の5種分別に対する評価	12
(2)	5種分別・指定袋制の改善すべき点	13
(3)	指定袋の使用状況（過不足）	13
2-5	ペットボトルの拠点回収について	14
2-6	容器包装ごみの分別収集について	16
(1)	ビンや缶の排出時に、ビンのキャップをはずす等の実践状況	16
(2)	ビンや缶を分別収集した後の人の手による作業の認識度	17
(3)	「容器包装リサイクル法（通称：容リ法）」の認識度	17
(4)	「プラスチック製容器包装」の認識度	18
(5)	「プラスチック製容器包装」の  マークの認識度	19
(6)	「ペットボトル」の  マークの認識度	20
(7)	プラスチック製容器包装などの分別収集が実施された場合への意見	21

2-7	事業者に望むごみ減量化・リサイクルのための取り組みについて	-----	25
(1)	レジ袋（手提げ用ポリ袋）について	-----	25
(2)	スーパーマーケット等の取り組みへの期待	-----	28
2-8	家庭から出るごみの収集と処理費用について	-----	29
(1)	分別収集による費用負担に対する意見	-----	29
(2)	「粗大ごみ」の収集と処理の費用負担に対する意見	-----	30
(3)	「可燃ごみ」の収集と処理の費用負担に対する意見	-----	31
2-9	市民啓発・活動拠点施設に必要な機能について	-----	33
2-10	重要と思うごみ減量のための施策について	-----	35
2-11	自由意見	-----	38

### 資料編

資料1	家庭ごみに関するアンケート調査 調査票	-----	39
資料2	自由意見	-----	48

## 第1章 調査の目的と方法

### 1-1 調査の目的

本市では平成19年2月に、循環型社会の形成に向けて更なる取り組みを推進し、ごみの分別収集及び再資源化施策等について議論していただくため、八尾市廃棄物減量等推進審議会に対して諮問しました。

このため、市民の方々の日頃のごみ減量化・リサイクルの取り組みの現状、ごみの分別収集に対する意見などを把握し、審議会における基礎資料とするため、自治振興委員752名の方を対象に家庭ごみに関するアンケート調査を実施しました。

### 1-2 調査の方法

#### (1) 調査対象

市内の自治振興委員752名を調査対象としてアンケート調査を実施しました。なお、アンケート調査の質問に対する回答は、日頃、ごみに一番かかわっている方に記入していただけるよう依頼しました。

#### (2) 配布・回収方法

調査票の配布は、各地区委員会において自治振興委員の方に配布し、郵送で回収しました。

#### (3) 調査日程

調査の日程は、表1-1に示すとおりです。

表1-1 調査の日程

	配布日・回収〆切日	備考
配布	平成19年10月9日～18日	地区委員会開催日に合わせて自治振興委員に配布
回収	10月26日・31日	配布日に合わせ、第1期26日、第2期31日を設定

#### (4) 調査項目

調査項目は以下のとおりです。なお、調査票は資料1に掲載しています。

問1 日常的に実践している、ごみ減量化・リサイクル行動について

問2 指定袋制について

(1) 指定袋制導入による、ごみを出す場合の考え方や行動の変化

(2) 排出ルール徹底のための地域での取り組み

問3 粗大ごみについて

(1) 粗大ごみ受付センターの利用状況

(2) 粗大ごみ電話予約制導入による、ごみを出す場合の考え方や行動の変化

問4 現在の分別収集について



(1) 現在の5種分別に対する評価

(2) 5種分別・指定袋制の改善すべき点

(3) 指定袋の使用状況（過不足）

問5 ペットボトルの拠点回収について

問6 容器包装ごみの分別収集について

- (1) ビンや缶の排出時に、ビンのキャップをはずす等の実践状況
- (2) ビンや缶を分別収集した後の人の手による作業の認識度
- (3) 「容器包装リサイクル法（通称：容リ法）」の認知度
- (4) 「プラスチック製容器包装」の認知度
- (5) 「プラスチック製容器包装」の  マークの認知度
- (6) 「ペットボトル」の  マークの認知度
- (7) プラスチック製容器包装などの分別収集が実施された場合への意見
  - 1) 「プラスチック製容器包装」や「ペットボトル」の区分増加への意向
  - 2) プラスチック製容器包装の排出ルールへの理解
  - 3) 多種分別を導入する場合に考慮すべき事項

問7 事業者に望むごみ減量化・リサイクルのための取り組みについて

- (1) レジ袋（手提げ用ポリ袋）について
  - 1) 日頃買い物をするスーパー等のレジ袋への対応
  - 2) 有料制やスタンプ制についての意見
  - 3) 行きつけのお店で、レジ袋が有料化された場合の行動
- (2) スーパーマーケット等の取り組みへの期待

問8 家庭から出るごみの収集と処理費用について

- (1) 分別収集による費用負担に対する意見
- (2) 「粗大ごみ」の収集と処理の費用負担に対する意見
- (3) 「可燃ごみ」の収集と処理の費用負担に対する意見

問9 市民啓発・活動拠点施設に必要な機能について

問10 重要と思うごみ減量のための施策について

問11 フェイスシート（回答者の性別等）

- (1) 性別、年代
- (2) 家族数

■自由意見（分別収集のあり方、ごみの減量化・リサイクルの推進などについて）

### 1-3 回収状況と回答者の概要

#### (1) 回収状況

回収状況は表1-2に示すとおりであり、回収率は約69%でした。

表1-2 回収状況

配布数	回収数	回収率
752票	522票	69.4%

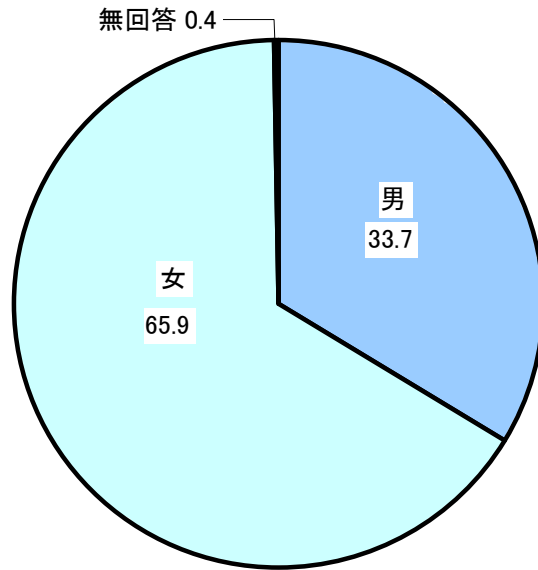
#### (2) 回答者の概要

回答者の性別、年代、家族数は以下のとおりでした。

##### 1) 性別

日頃、ごみに一番かかわっている方に記入していただけるよう依頼したこともあり、図1-1に示すように回答者の約66%は女性でした。

図 1 - 1 回答者の性別



## 2) 年代

回答者の年代は、図 1 - 2 に示すように「60歳代」が中心でした。ただし、アンケート調査の回答に当たってはできる限り家族の間で話し合っただけで回答してもらえないように依頼しており、ある程度家族全体の意見が反映されているものと考えます。

なお、年代別の回答者の男女割合を図 1 - 3 に整理しました。40歳代では「女性」の割合が高く、70歳代以上の回答では、「男性」の回答がかなり高い割合を占めていました。

図 1 - 2 回答者の年代

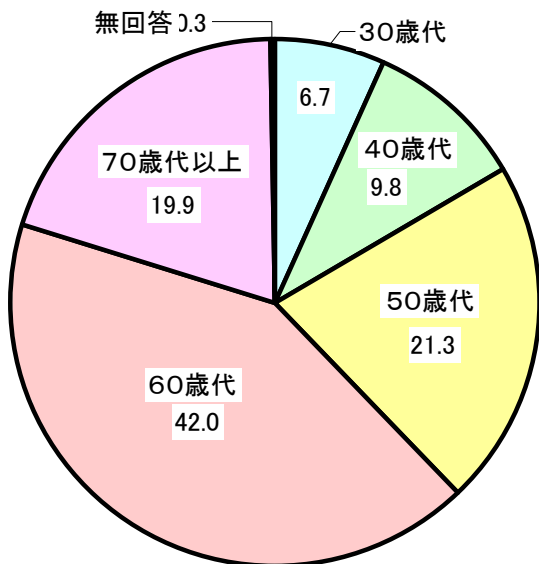
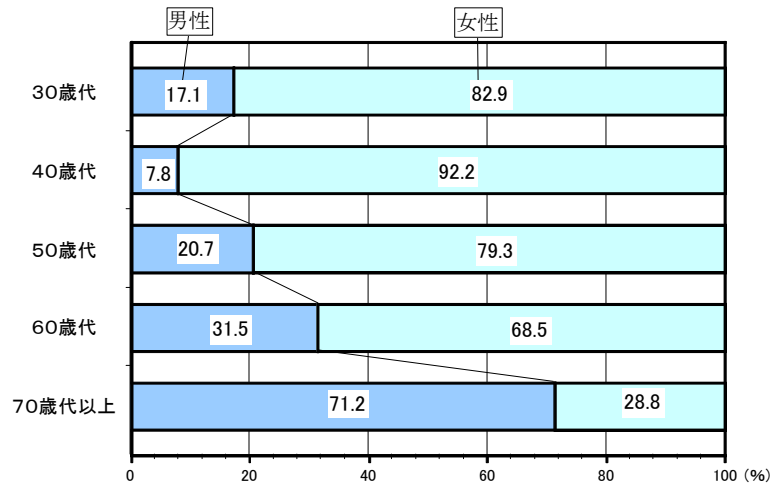


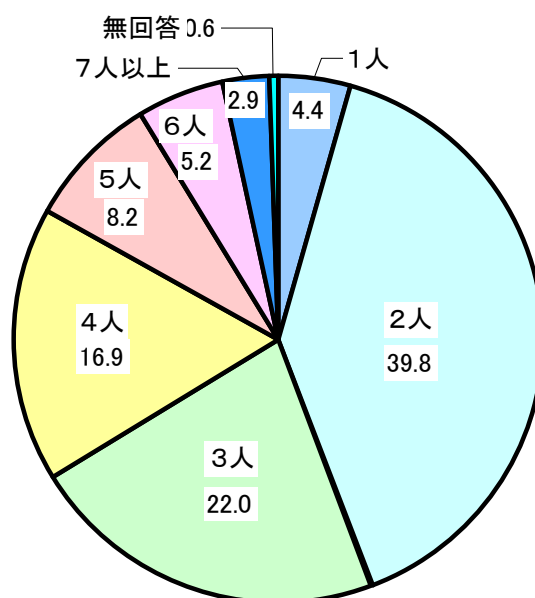
図 1 - 3 年代別男女割合



### 3) 家族人数

回答者の家族人数は、図1-4に示すように、「2人」が約40%、「3人」が約22%、「4人」が約17%でした。

図1-4 回答者の家族人数



## 第2章 調査の結果

### 2-1 日常的に実践している、ごみ減量化・リサイクル行動について

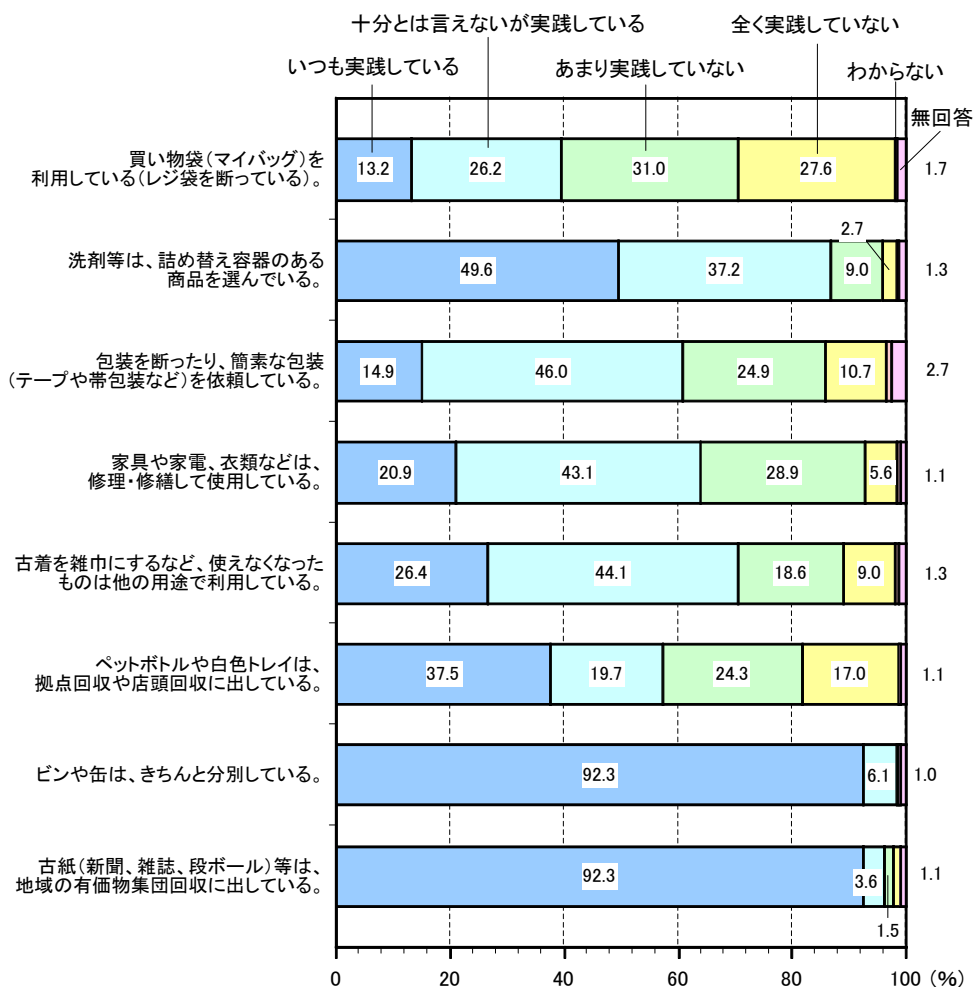
日常的に実践している、ごみ減量化・リサイクルの行動について、「いつも実践している」、「十分とは言えないが実践している」、「あまり実践していない」、「全く実践していない」の4ランクで、その行動の程度について質問しました。

その結果は、図2-1に示すとおりであり、回答者全体では、「いつも実践している」の割合が90%を超えて高いのは、『ビンや缶は、きちんと分別している。』、『古紙（新聞、雑誌、段ボール）等は、地域の有価物集団回収に出している。』でした。「いつも実践している」に着目すると、次に割合が高いのは、『洗剤等は、詰め替え容器のある商品を選んでいる。』でした。

『ペットボトルや白色トレイは、拠点回収や店頭回収に出している。』も、「いつも実践している」の割合が比較的高いのですが、「あまり実践していない」や「実践していない」を合わせた割合も、他の行動に比べ高くなっています。

『買い物袋（マイバック）を利用している（レジ袋を断っている）。』については、今回質問した行動の中で、「いつも実践している」と「十分とは言えないが実践している」を合わせた割合が約39%と一番低くなっています。

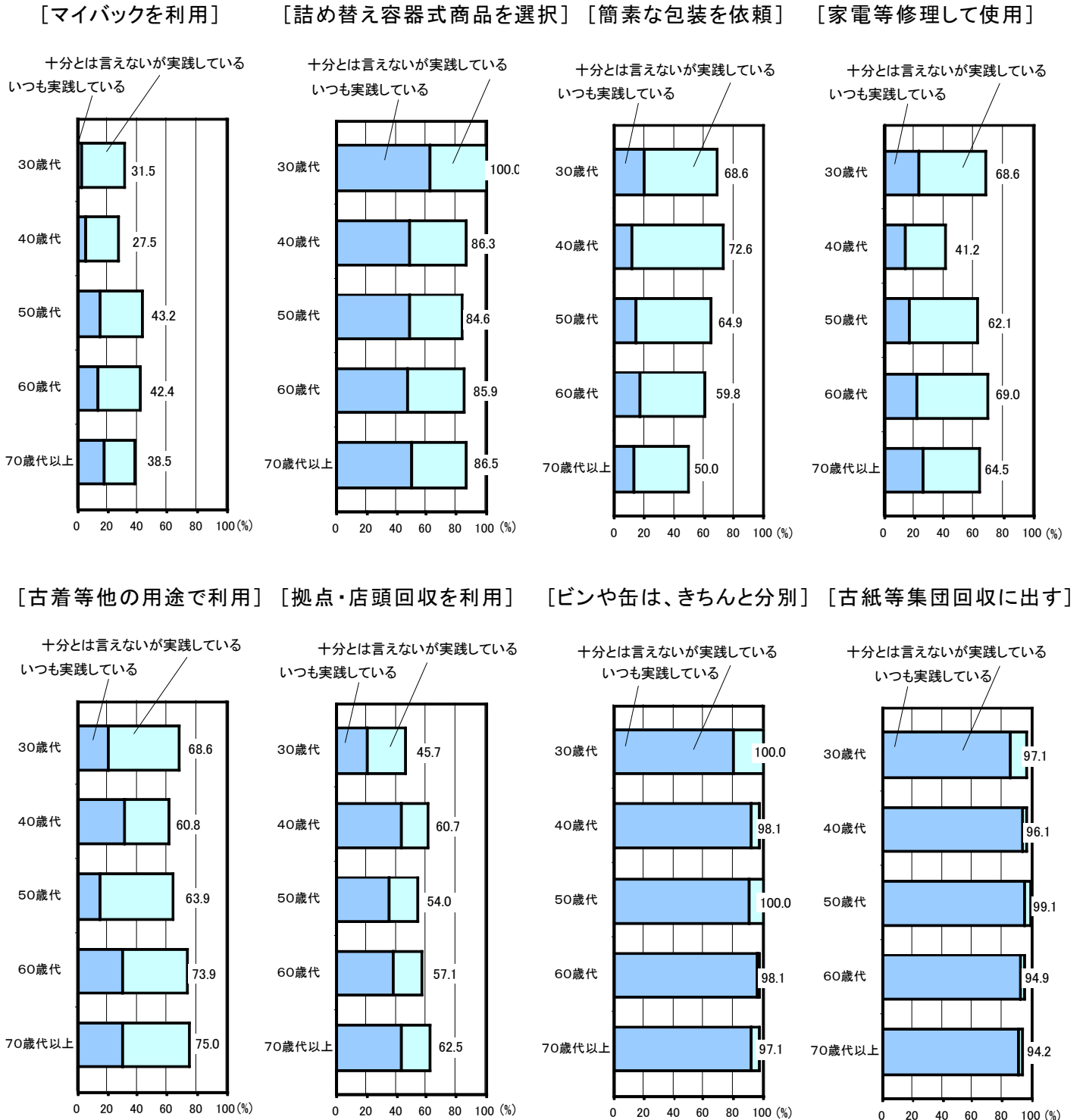
図2-1 日常的に実践している、ごみ減量化・リサイクル行動





また、図2-2には年代別に、実践している行動の内容を整理しました。図に示すように、必ずしも全ての行動について、年齢の高い方が実践行動率が高いわけではなく、『洗剤等は、詰め替え容器のある商品を選んでいる。』や『包装を断わったり、簡素な包装（テープや帯包装など）を依頼している。』など、行動の内容によっては30歳代や40歳代の方が実践行動率が高い行動があります。

図2-2 日常的に実践している、ごみ減量化・リサイクル行動（年代別）



## 2-2 指定袋制について

### (1) 指定袋制導入による、ごみを出す場合の考え方や行動の変化

平成8年10月の指定袋制導入によるごみを出す場合の考え方や行動の変化については、図2-3に示すように、回答者全体では、「分別排出のルールを守るようになった」が約83%と最も多く、次いで、「ごみに対する意識が高まった」(約56%)、「ビンや缶を排出する前に、洗浄等を行うようになった」(約54%)、「ごみをなるべく少なくするよう、努力するようになった」(約53%)が50%を超えて回答されていました。逆に、「特に変わっていない」は僅かに7%と、指定袋制の導入が市民の行動に大きな影響を与えたことが分かります。

ところで、その他の回答が約3%を占めますが、その主な内容は、『生ごみの堆肥化に取り組むようになった』などが回答されていました。

また、図2-4には年代別に、指定袋制導入による、ごみを出す場合の考え方や行動の変化を整理しました。ほぼ10年前の制度変更であることもあり、当時はまだごみの排出を担っていないかと思われる30歳代や40歳代の方に比べ、50歳代以上の方の考え方や行動への影響が大きく現れています。

図2-3 指定袋制導入による、ごみを出す場合の考え方や行動の変化(複数回答)

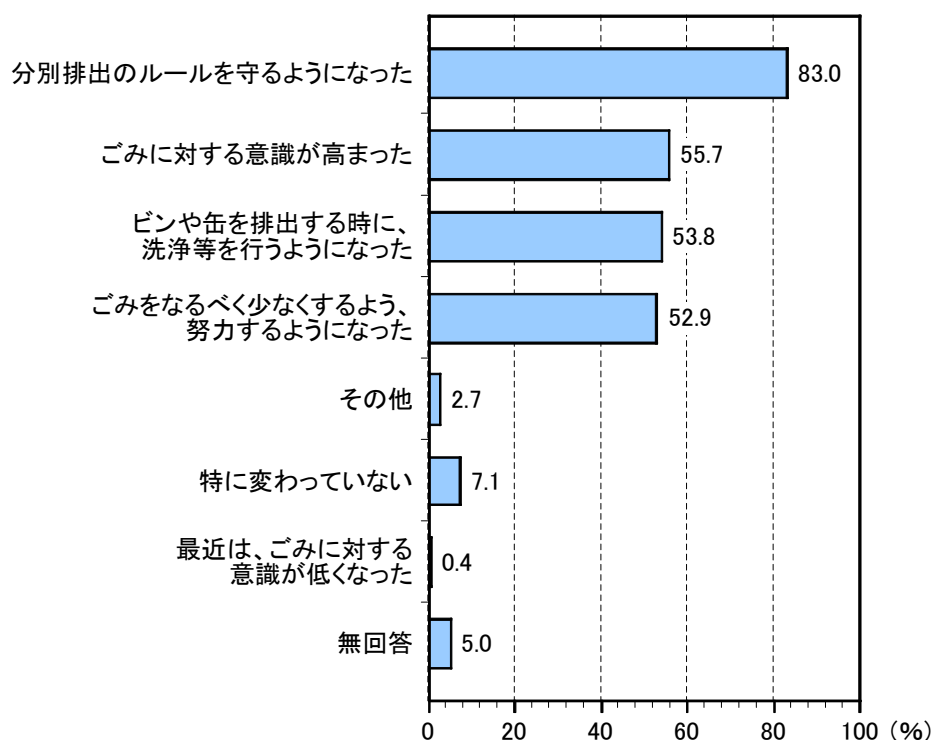
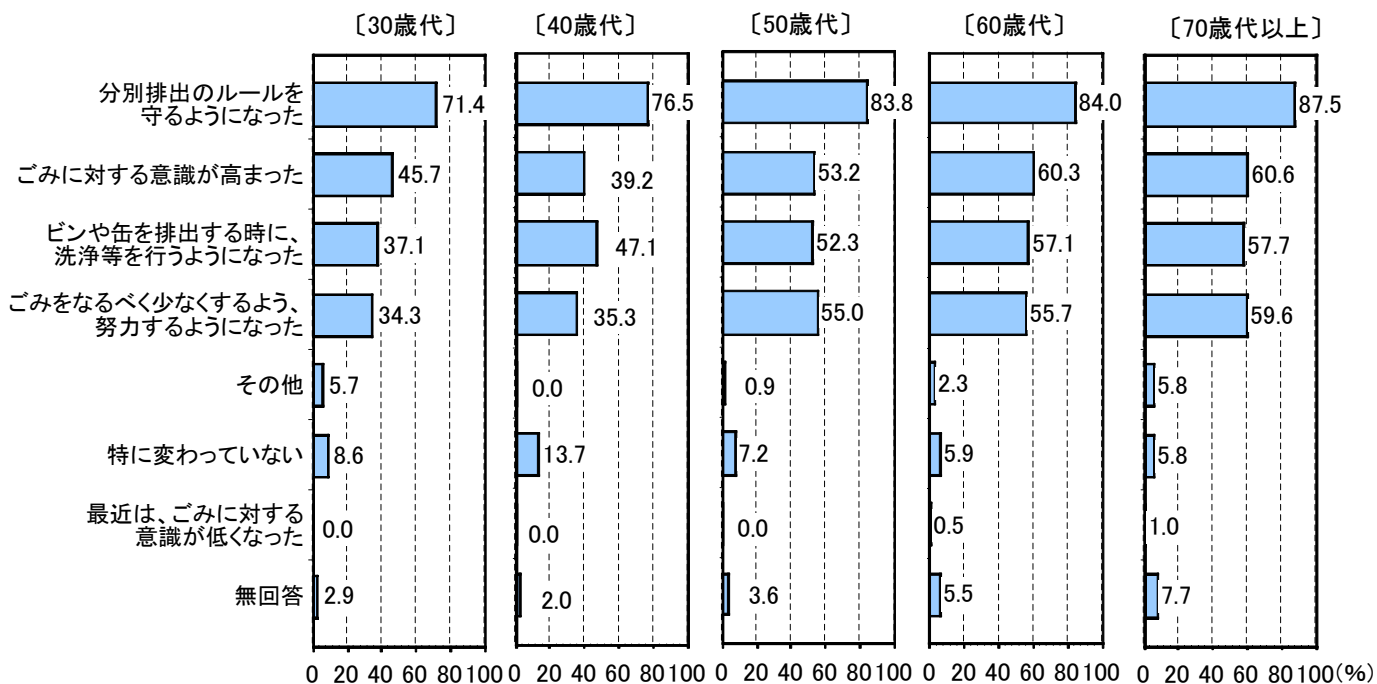


図 2 - 4 指定袋制導入による、ごみを出す場合の考え方や行動の変化(年代別 複数回答)



## (2) 排出ルール徹底のための地域での取り組み

指定袋制導入時に「排出ルール違反ごみの取り残し（違反シールの貼り付け）」を実行しており、これに対して、ごみの排出ルールを徹底するため、地域で具体的な取り組みをしたかどうか質問しました。

これに対して、回答者全体では図 2 - 5 に示すように、ほぼ 10 年前のことでもあり、「特別なことはなにもしなかった・忘れてしまった」の回答も多かったですが、「自治会・町内会で排出ルールの回覧板を回した」が約 31%、「ごみ出しする場所（ステーション）に注意を呼びかけるビラを貼ったり、看板を立てた」が約 26% となっていました。

なお、その他の主な内容は、『地域では排出ルールが守られ、ルール違反のシールが貼られたごみ袋は見なかった』、『排出ルールを守るため、ごみを家の前に出すようにした』、『自分の家に持ち帰り、自分が分けて出した』などが回答されていました。

また、図 2 - 7 には、ごみの排出ルールを徹底するため、地域で実施した具体的な取り組みを年代別に整理しました。図に示すように、60歳代以上の方の取り組みの実施率が全体的に高くなっています。

図 2-6 排出ルール徹底のための地域での取り組み（複数回答）

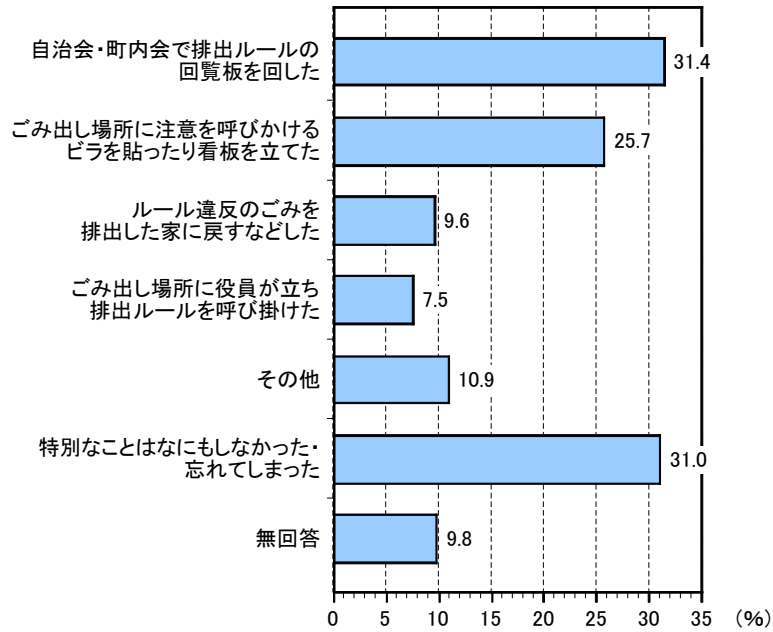
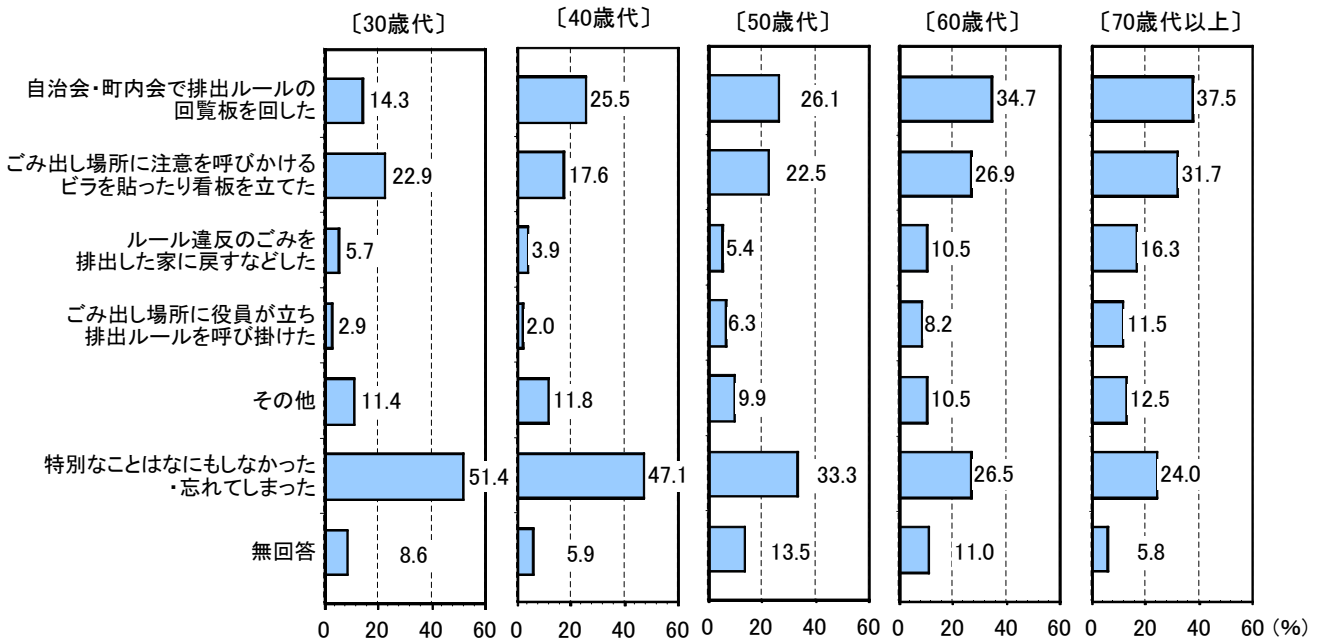


図 2-7 排出ルール徹底のための地域での取り組み（年代別 複数回答）



## 2-3 粗大ごみについて

### (1) 粗大ごみ受付センターの利用状況

八尾市では、平成13年4月から、粗大ごみの電話予約制を導入しており、どのくらいの頻度で「粗大ごみ受付センター」が利用されているのか質問しました。

これに対して、回答者全体では図2-8に示すように、「今までに数回程度」が最も多く、次いで、「4～6ヶ月に1回程度」（約13%）、「7～12ヶ月に1回程度」（約11%）となっていました。一方、「まだ申し込んだことがない」が約17%を占めていました。

年代別には、図2-9に示すように、30歳代、40歳代がやや利用頻度が高い傾向が見られますが、30歳代では、「まだ申し込んだことがない」も約34%と高くなっています。

図 2 - 8 粗大ごみ受付センターの利用状況

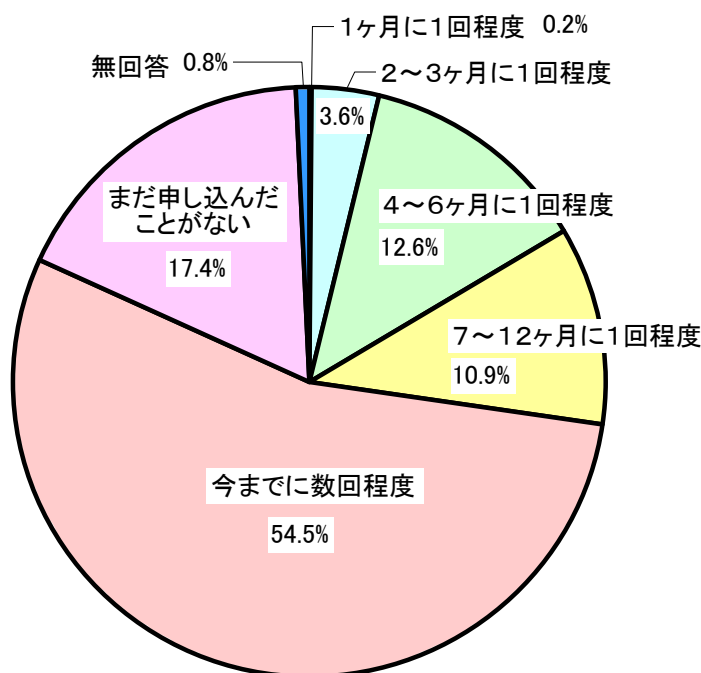
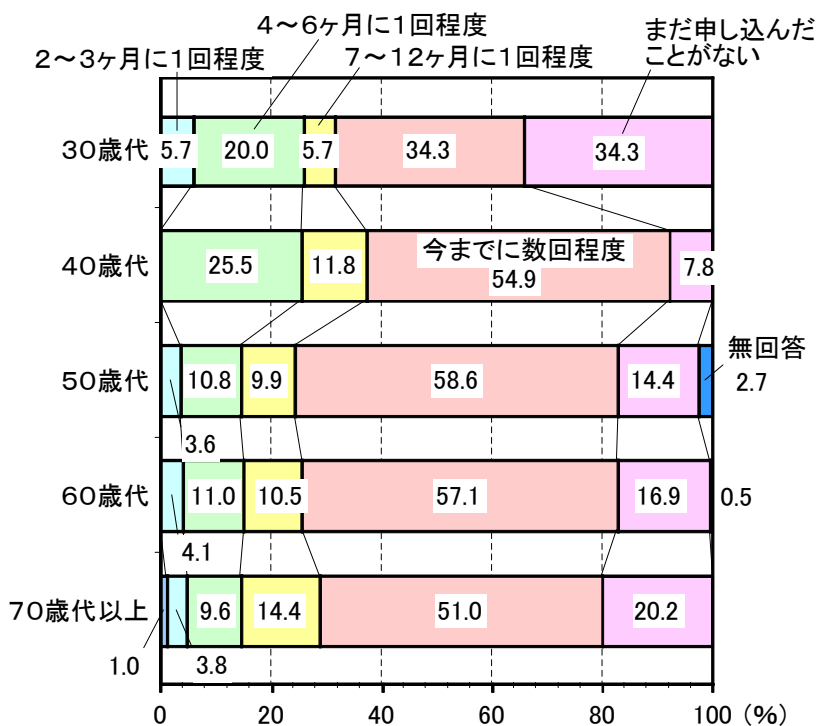


図 2 - 9 粗大ごみ受付センターの利用状況（年代別）



## (2) 粗大ごみ電話予約制導入による、ごみを出す場合の考え方や行動の変化

粗大ごみ電話予約制導入による粗大ごみを捨てる場合の考え方や行動の変化については、図 2 - 10 に示すように、回答者全体では、「販売店による引き取りを、なるべく利用するようになった」が約 54% と最も多く、次いで、「家電製品や家具等を簡単に捨てないよう、心がけるようになった」(約 40%)、「従来は収集日にその都度出していたが、一定量貯めてまとめて申し込むようになった」(約 31%)、「すぐに粗大ごみになりそうなものを、なるべく購入しないようになった」(約 25%) などとなっています。なお、その他としては、「粗大ごみを細かく切って、指定袋に入れて出す」な

どが回答されていました。

年代別には、図2-11に示すように、「販売店による引き取りを、なるべく利用するようになった」の回答が、年代が高くなるほど高くなっており、また30歳代では、「収集日毎の排出をせず、一定量貯めて申し込むようになった」が低い一方、「家電製品や家具を簡単に捨てないよう心がけるようになった」が高くなっています。

図2-10 ごみを出す場合の考え方や行動の変化（複数回答）

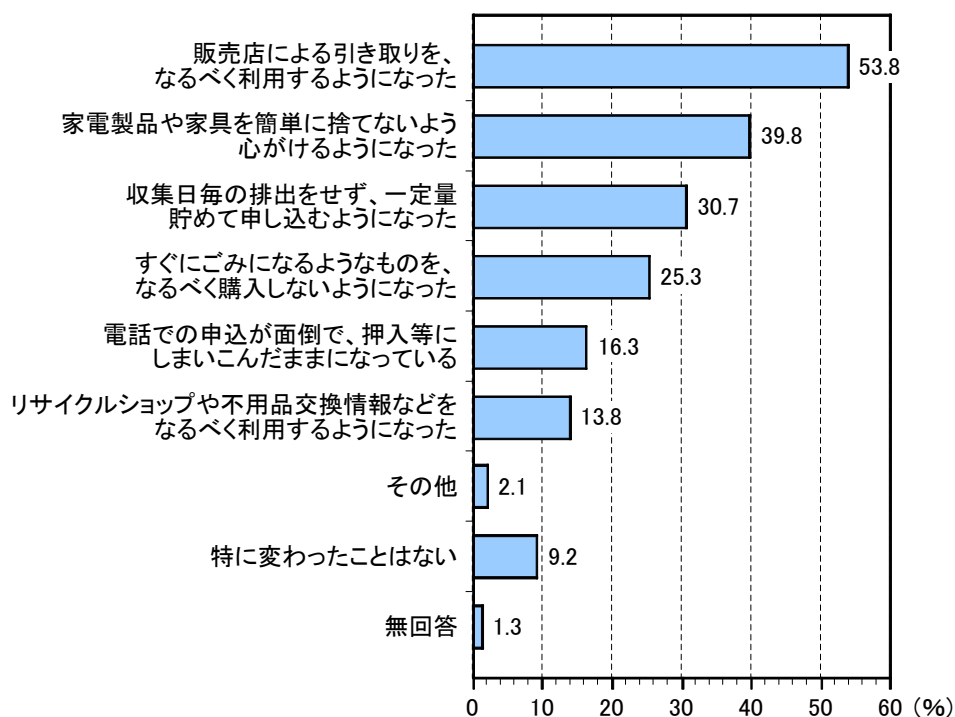
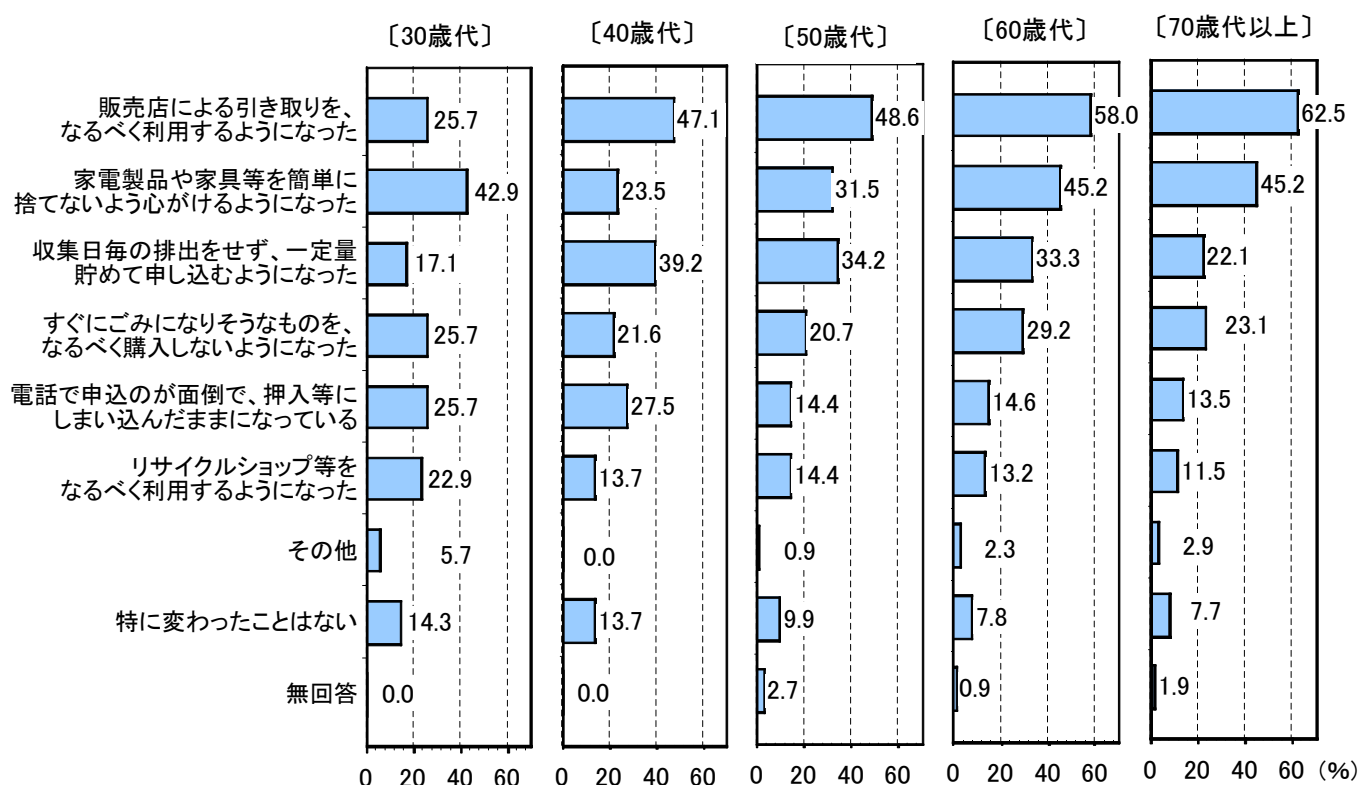


図2-11 ごみを出す場合の考え方や行動の変化（年代別 複数回答）



## 2-4 現在の分別収集について

### (1) 現在の5種分別に対する評価

八尾市では、「可燃ごみ」、「資源ごみ」、「埋立ごみ」、「複雑ごみ」、「粗大ごみ」の5種分別を実施しており、この分別方法に対する評価を質問しました。

これに対して、回答者全体では図2-12に示すように、「このままでよい」が約80%を占めていましたが、「改善してほしい」も約15%ありました。

年代別には、図2-13に示すように、30歳代、40歳代では「改善してほしい」の割合が、他の年代より若干高くなっていました。

図2-12 5種分別への意向

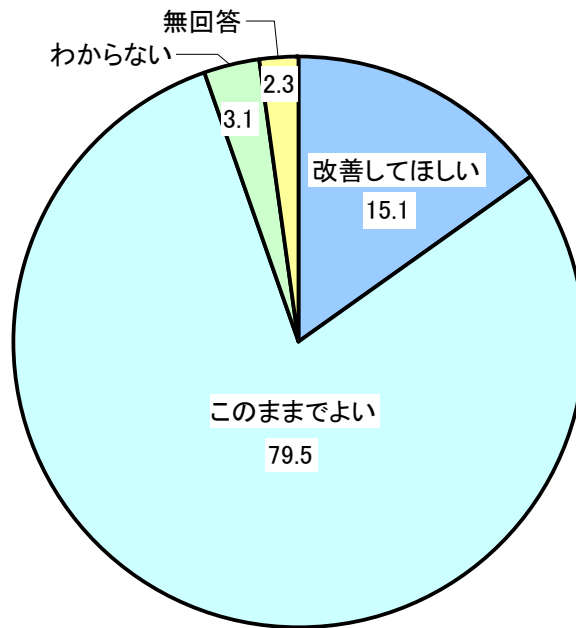
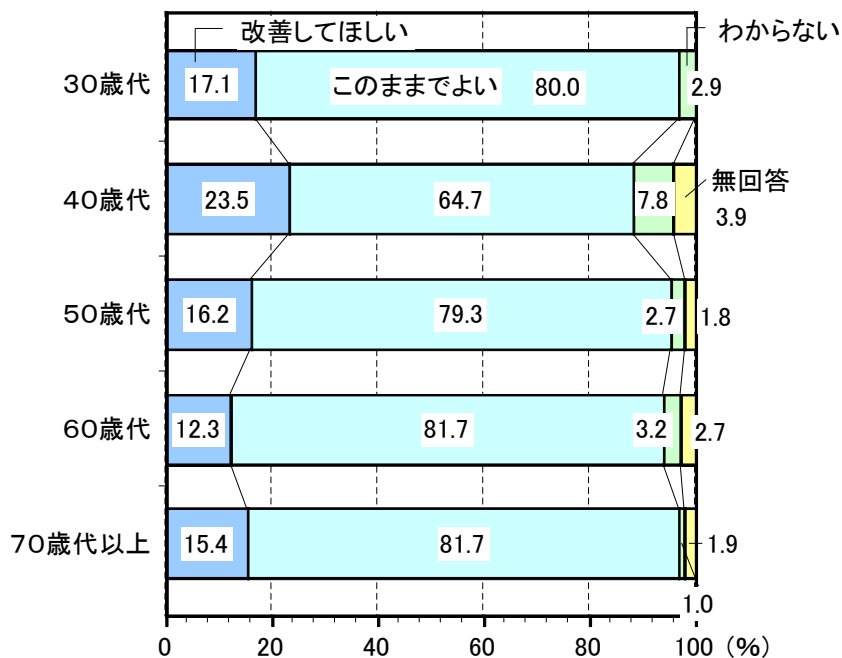


図2-13 5種分別への意向（年代別）



## (2) 5種分別・指定袋制の改善すべき点

前問に対して「改善して欲しい」と回答した方から、5種分別・指定袋制の改善すべき点について以下のような指摘を受けました。その内容を表2-1に整理しました。

表2-1 5種分別・指定袋制の改善すべき点

改善点		件数
5種分別について		
分別区分	ペットボトルを分別する	26
	牛乳パック、トレイ、乾電池などを分別する	13
	可燃ごみとプラスチック類を分別する	4
	もっと細かく分別する	4
	資源ごみのビンと缶を別々に収集する	2
	資源ごみからリユースビンを分別する	1
	分別収集	
粗大ごみ	粗大ごみの収集日をつくる	3
	電話予約制で、月1回の収集日をつくる	1
	その他	
複雑ごみ、埋立ごみの分別の中身を分かりやすくする	6	
埋立ごみも電話予約制にする	1	
埋立ごみの収集回数を減らす	1	
指定袋について		
可燃ごみ袋	配布枚数を増やす	6
	袋をやぶれにくくする	4
	小さい袋のサイズをつくる	1
その他のごみ袋	配布枚数を減らす	12
	資源ごみの袋をもっと大きくする	1
	複雑ごみの袋をもっと大きくする	1
その他	余った袋を回収する（他の袋と交換する）	2
	有料化する	1

## (3) 指定袋の使用状況（過不足）

指定袋の使用状況（過不足）について質問しました。

これに対して回答者全体では図2-14に示すように、「余っている」が約59%、「ほぼ足りている」が約39%、「足りない」が約26%でした。

「余っている」、「足りない」と回答のあった袋の種類は図2-15に示すとおりです。『余っている』袋としては、「埋立ごみ用」が約92%、「複雑ごみ用」が約76%となっていました。一方、『足りない』袋としては、「可燃ごみ用」が約96%でした。

家族数別には、図2-16に示すとおり、家族数が多くなるほど、「足りない」との回答割合が高くなる傾向があります。



図 2 - 1 4 指定袋の過不足の状況（複数回答）

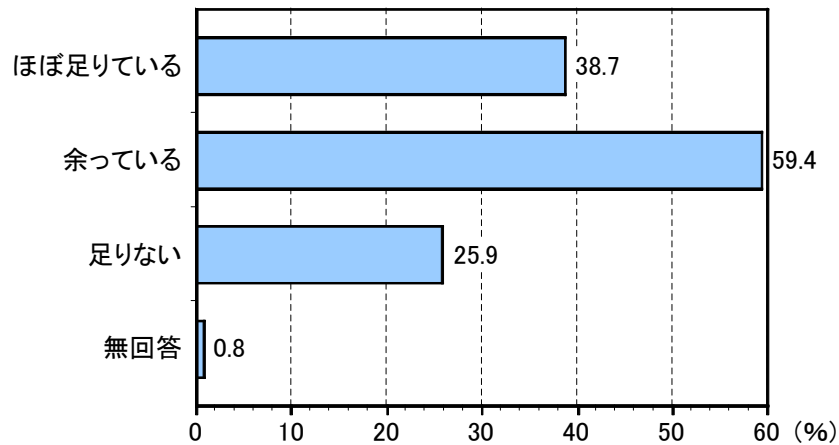
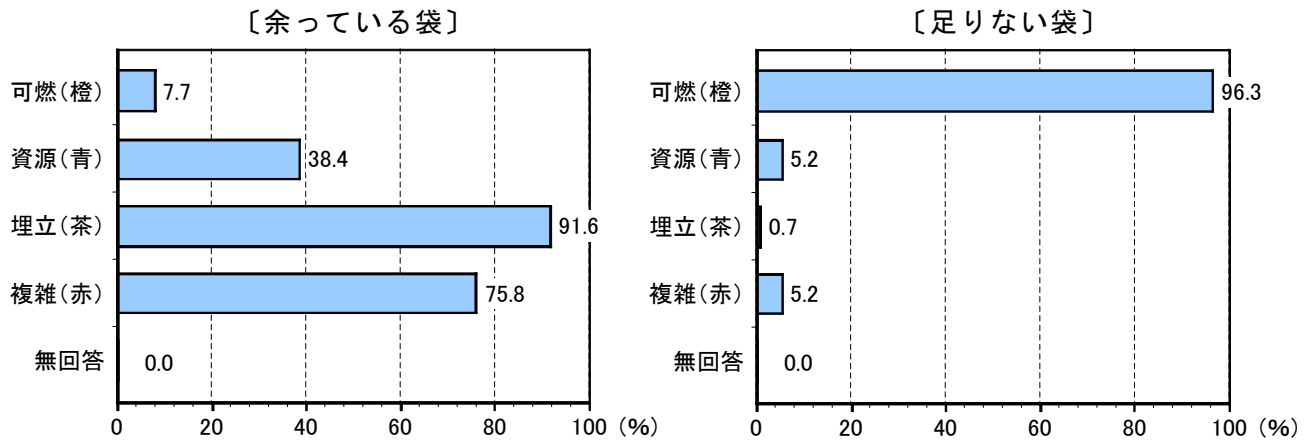


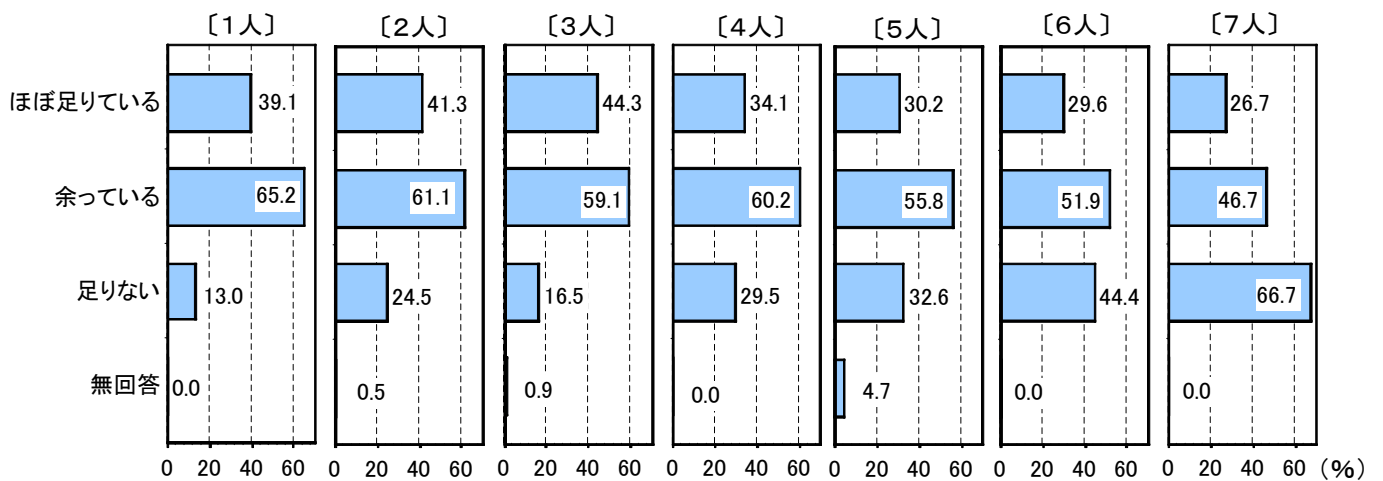
図 2 - 1 5 「余っている」、「足りない」袋の種類（複数回答）



注) 「余っている」と回答した 3 1 0 人の方の状況

注) 「足りない」と回答した 1 3 5 人の状況

図 2 - 1 6 指定袋の過不足の状況（家族数別 複数回答）



## 2 - 5 ペットボトルの拠点回収について

ペットボトルの拠点回収に対して、改善の要望を質問しました。

回答者全体では図 2 - 1 7 に示すように、「ビンや缶のように、市で分別収集して欲しい」（約 3 5 %）、「コンビニエンスストアで回収するなど、もっと回収拠点を増やして欲しい」（約 2 3 %）、「デポジット制（容器代を上乗せして販売）を導入し、メーカ

一・販売店の責任で回収すべき」(約7%)など、改善要望が約64%ありました。一方、「現在のままでよい」は約32%でした。

年代別でも、図2-18に示すように、70歳代以上を除いて「ビンや缶のように、市で分別収集して欲しい」が一番多い意見となっていますが、30歳代では、「コンビニエンスストアで回収するなど、もっと回収拠点を増やして欲しい」への回答割合も高くなっていました。

図2-17 ペットボトルの拠点回収への改善要望

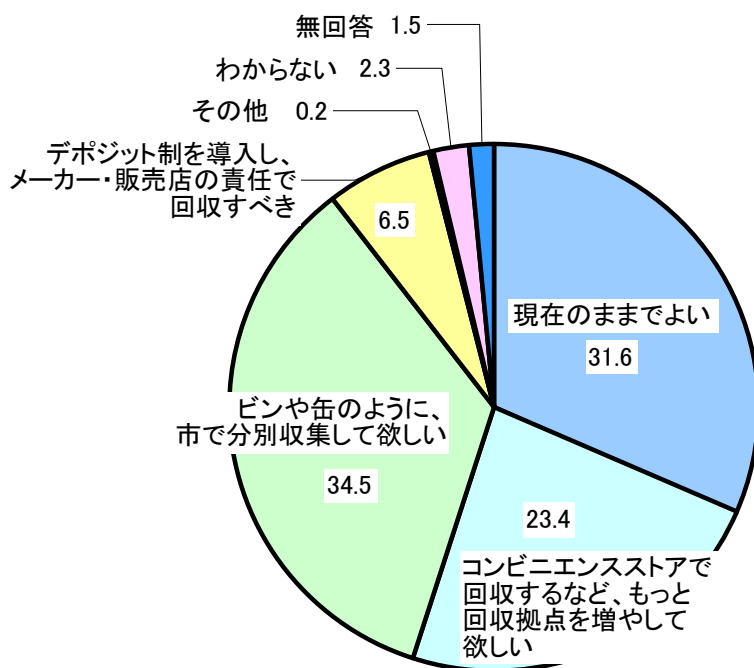
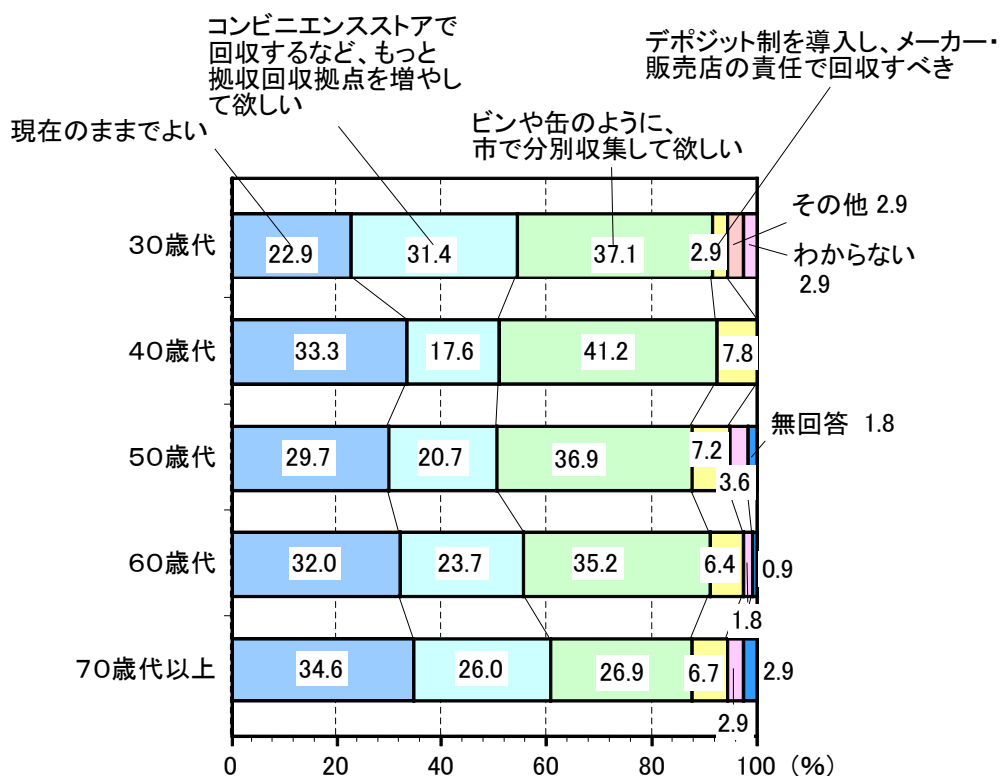


図2-18 ペットボトルの拠点回収への改善要望(年代別)



## 2-6 容器包装ごみの分別収集について

### (1) ビンや缶の排出時に、ビンのキャップをはずす等の実践状況

ビンや缶の排出時に、ビンのキャップをはずしたり、中を軽く水洗いする等の実践状況について質問しました。回答者全体では、図2-19に示すように、「いつも守っている」が約49%であるのに対し、「ほとんど守っていない」(約8%)、「キャップをはずしたり、中を軽く水洗いしなくてはならないことを、初めて知った」(約5%)のように、キャップをはずしたり、中を軽く水洗いするなどを実践していないといった回答は約14%を占めていました。

年代別では、図2-20に示すように、「いつも守っている」と「時々、守らないことがある」を合わせてある程度は守っていると回答された方の割合は、ほぼどの年代も同じでしたが、30歳代や40歳代では、「キャップをはずしたり、中を軽く水洗いしなくてはならないことを、初めて知った」が他の年代に比べやや高くなっていました。

図2-19 ビンや缶の排出時に、ビンのキャップをはずす等の実践状況

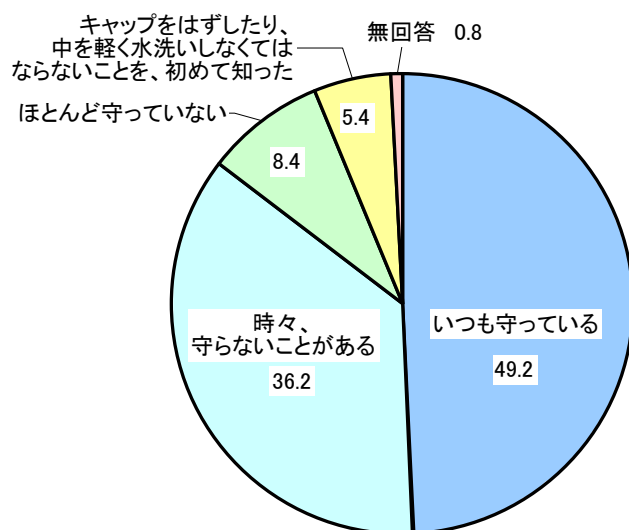
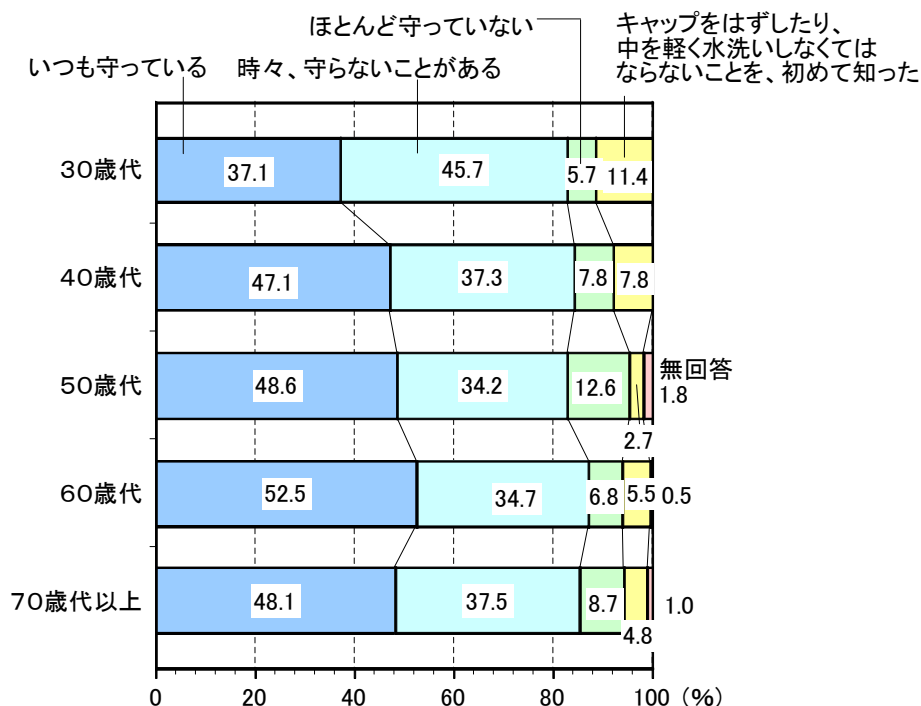


図2-20 ビンや缶の排出時に、ビンのキャップをはずす等の実践状況 (年代別)



## (2) ビンや缶を分別収集した後の人の手による作業の認知度

ビンや缶を分別収集した後、人の手による作業が行われていることを知っているか質問しました。

回答者全体では、図2-21に示すとおり、「施設見学やテレビ等で作業風景を見て、知っていた」(約39%)、「なんとなく、知っていた」(約46%)を合わせて「知っていた」が約85%でした。一方、「初めて聞いた(知らなかった)」は約15%でした。

年代別では、図2-22に示すとおり、30歳代、40歳代で「初めて聞いた(知らなかった)」がやや高くなっていました。

図2-21 ビンや缶を分別収集した後の人の手による作業の認知度

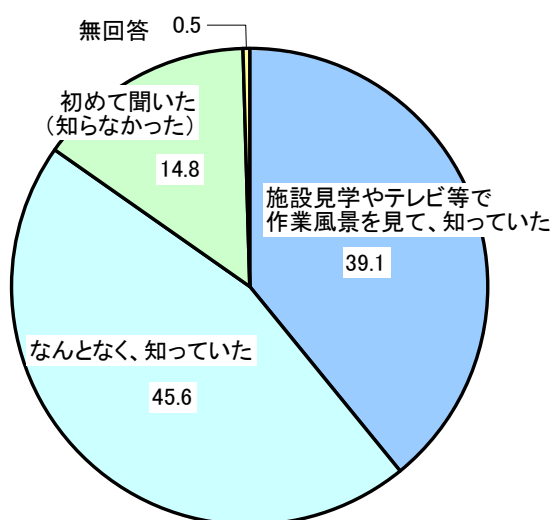
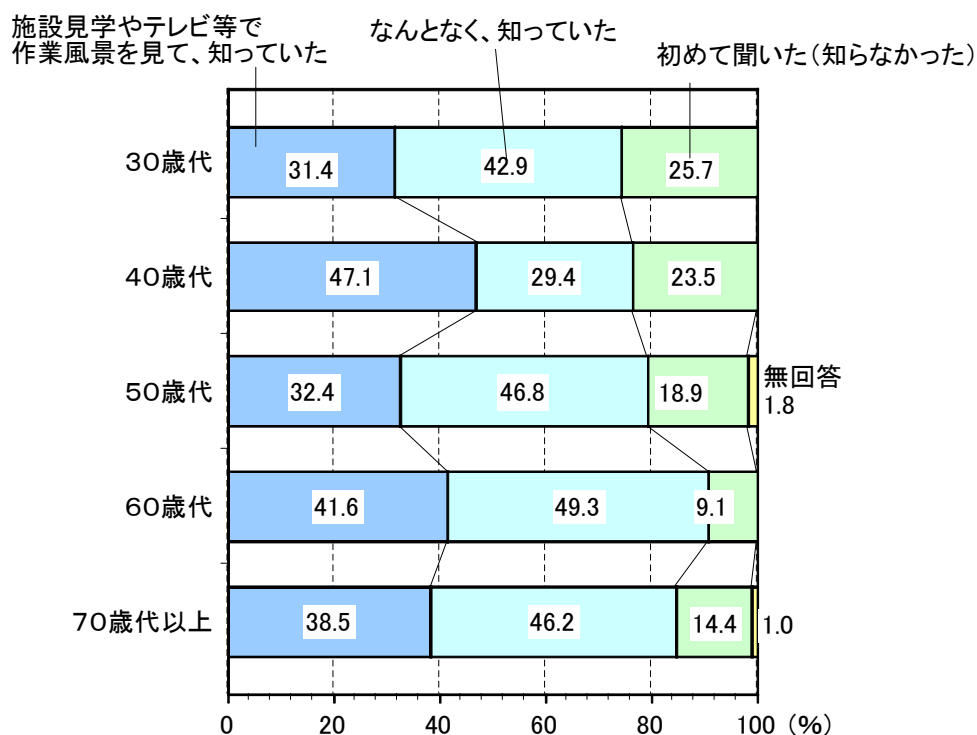


図2-22 ビンや缶を分別収集した後の人の手による作業の認知度(年代別)



## (3) 「容器包装リサイクル法(通称:容リ法)」の認知度

「容器包装リサイクル法(通称:容リ法)」を聞いたことがあるか質問しました。

回答者全体では、図2-23に示すとおり、「知っている」が約20%、「言葉は聞いて

たことはあるが、具体的な内容は分からない」が約48%を占め、「初めて聞いた」は約31%でした。

年代別には、図2-24に示すとおり、30歳代を除き、年代が高くなるほど認知度も高くなっていました。

図2-23 「容器包装リサイクル法（通称：容リ法）」の認知度

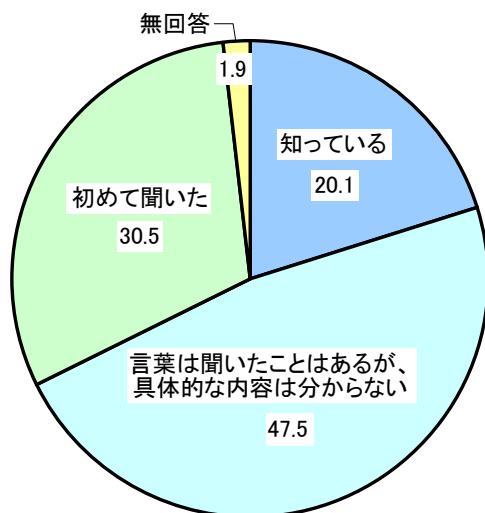
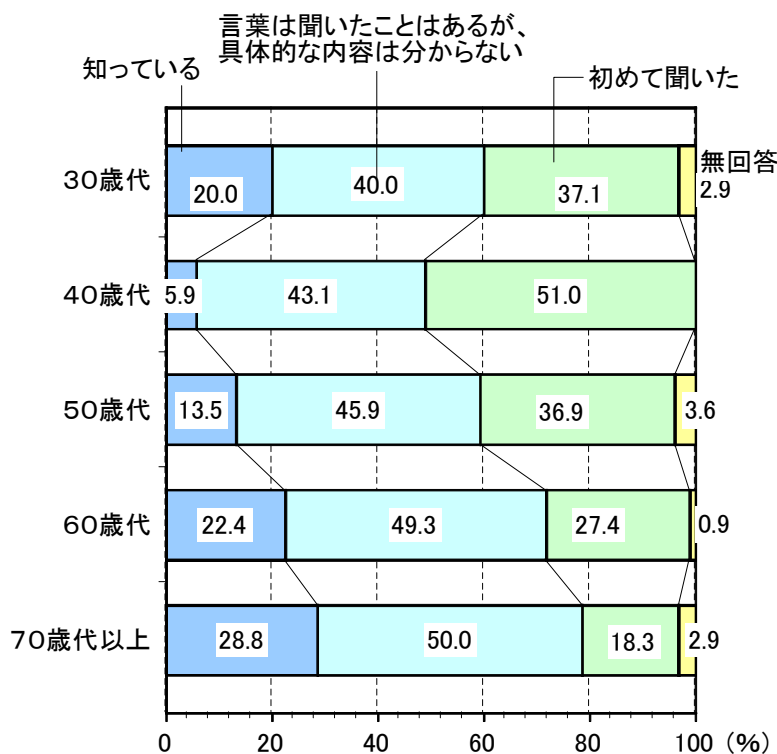


図2-24 「容器包装リサイクル法（通称：容リ法）」の認知度（年代別）



#### (4) 「プラスチック製容器包装」の認知度

「プラスチック製容器包装」がどんなものか知っているか質問しました。

回答者全体では、図2-25に示すとおり、「知っている」が約30%、「言葉は聞いたことはあるが、具体的な内容は分からない」が約44%、「初めて聞いた」が約23%でした。

年代別には、図2-26に示すとおり、50歳代以上の方の認知度が高く、30歳代、

40歳代で「初めて聞いた」が高くなっていました。

図2-25 「プラスチック製容器包装」の認知度

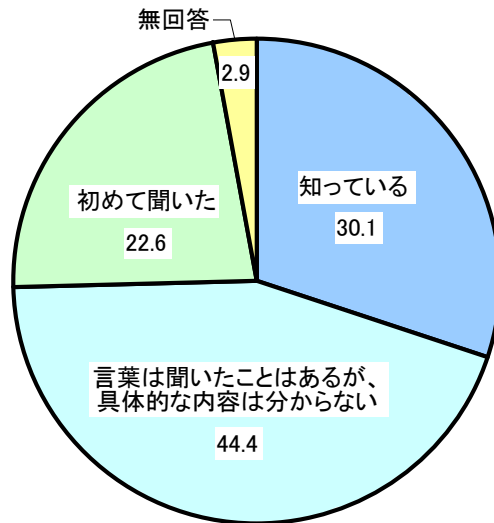
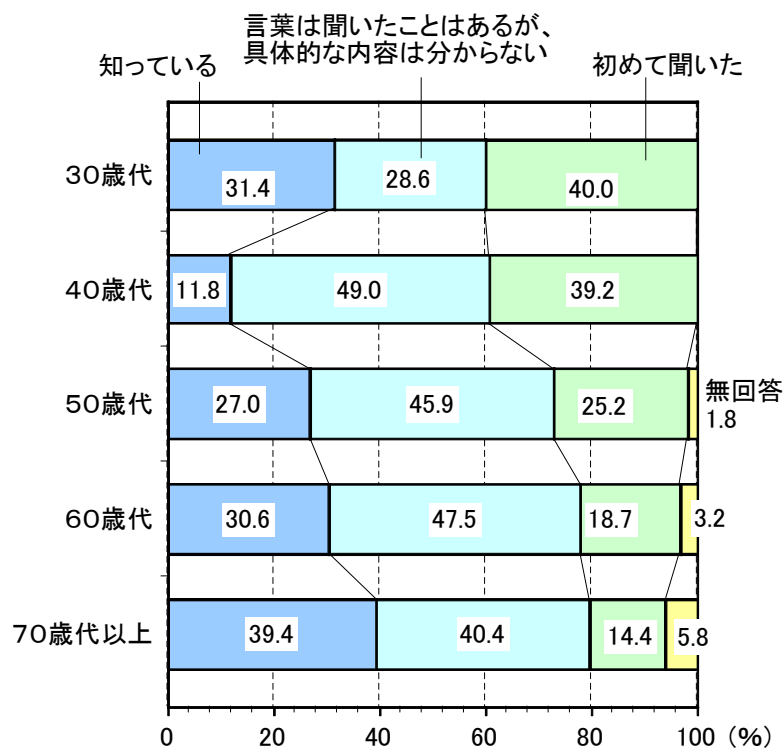



図2-26 「プラスチック製容器包装」の認知度（年代別）



#### (5) 「プラスチック製容器包装」の マークの認知度

「プラスチック製容器包装」についているマークについて知っているか質問しました。回答者全体では、図2-27に示すとおり、約63%が「知っている」と回答しました。一方、「見たことはあるが、何のマークか知らない」が約29%で、「初めて見た」が約6%でした。

年代別には、図2-28に示すとおり、いずれの年代でも「知っている」が60%を超えていましたが、逆に、どの年代も30~40%の方が「見たことはあるが、何のマークか知らない」という回答でした。

図 2-27 「プラスチック製容器包装」の  マークの認知度

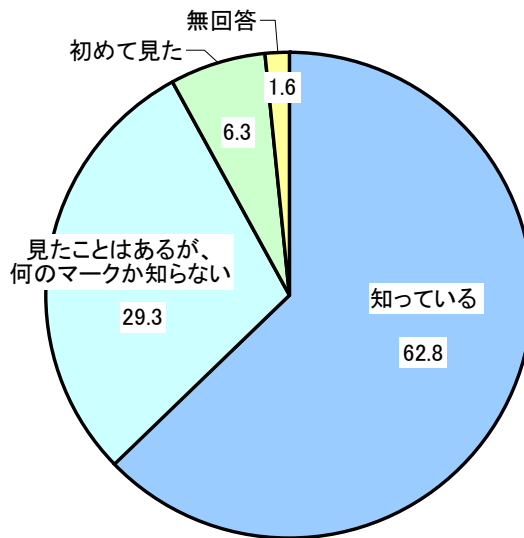

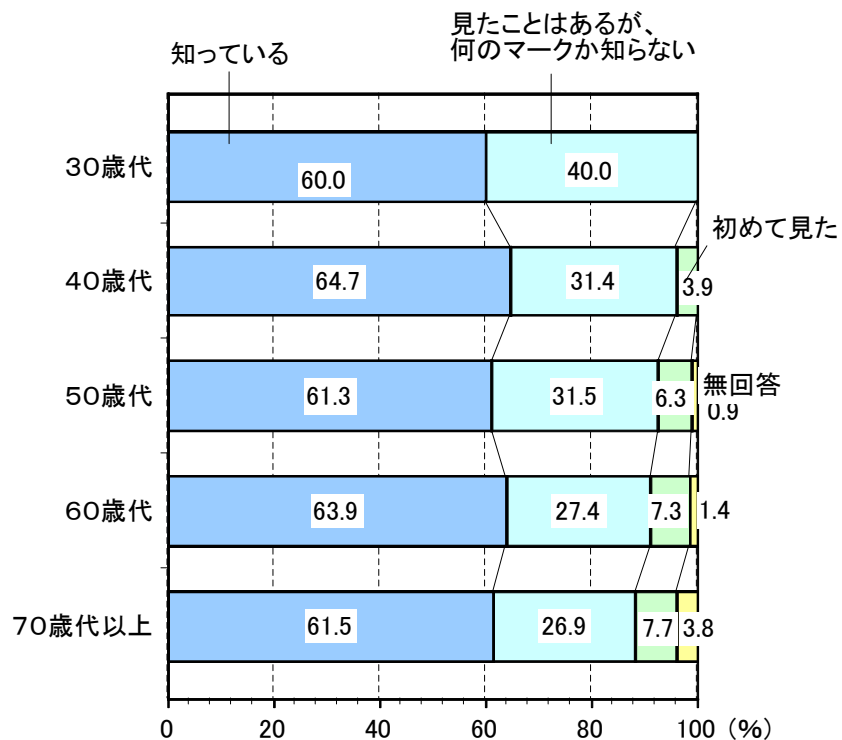



図 2-28 「プラスチック製容器包装」の  マークの認知度（年代別）



#### (6) 「ペットボトル」の マークの認知度

「ペットボトル」についているマークについて、図 2-29 に示すように、約 64% が「知っている」と回答しました。一方、「見たことはあるが、何のマークか知らない」が約 26% で、「初めて見た」が約 8% でした。

年代別では、図 2-29 に示すとおり、ペットボトルの飲料に馴染んでいる 30 歳代、40 歳代で「知っている」がやや高くなっていました。

図 2-28 「ペットボトル」の、 マークの認知度

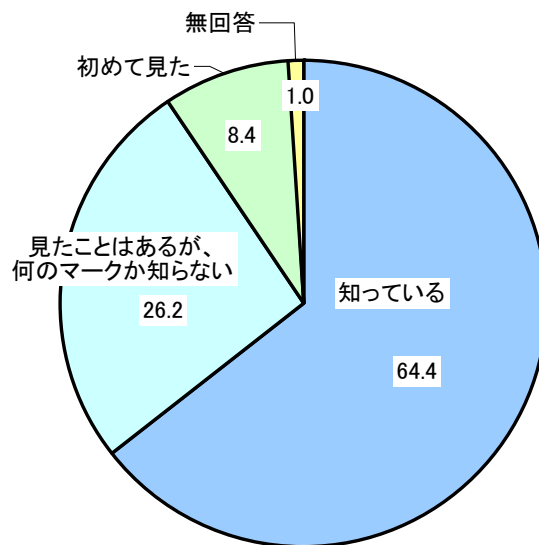

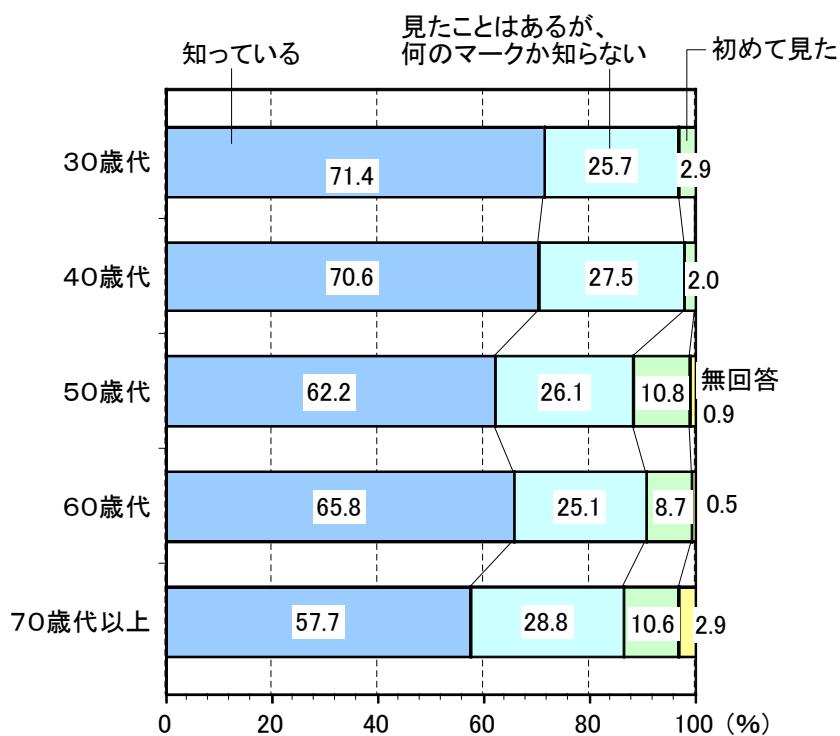


図 2-29 「ペットボトル」の、 マークの認知度



## (7) プラスチック製容器包装などの分別収集が実施された場合への意見

### 1) 「プラスチック製容器包装」や「ペットボトル」の区分増加への意向

ごみの収集区分として、「プラスチック製容器包装」や「ペットボトル」の区分を増やすことについて質問しました。回答者全体では、図 2-31 に示すとおり、「リサイクルを進めるため、多種分別に取り組むべきである」(約 28%)、「分別の種類が増えると負担が多いが、環境への配慮のためには、やむを得ない」(約 57%) を合わせた意見が約 85% を占めていました。一方、反対の意見としては「現在の分別区分でも大変であり、多種分別は困る」(約 7%)、「現在の分別区分よりも、もっと少ない収集区分にして欲しい」(約 2%) を合わせて約 8% でした。



なお、その他の意見は「ペットボトルは良いが、その他のプラスチック製容器包装となると家族の多い家庭や老人の居る家庭ではなかなか実施することは大変ではないか」などでした。

年代別では、図2-32に示すとおり、30歳代、40歳代で「リサイクルを進めるため、多種分別に取り組むべきである」、30歳代、40歳代で「リサイクルを進めるため、多種分別に取り組むべきである」、「分別の種類が増えると負担が多いが、環境への配慮のためには、やむを得ない」を合わせた意見が、他の年代より高くなっていました。

図2-31 「プラスチック製容器包装」や「ペットボトル」の区分増加への意向

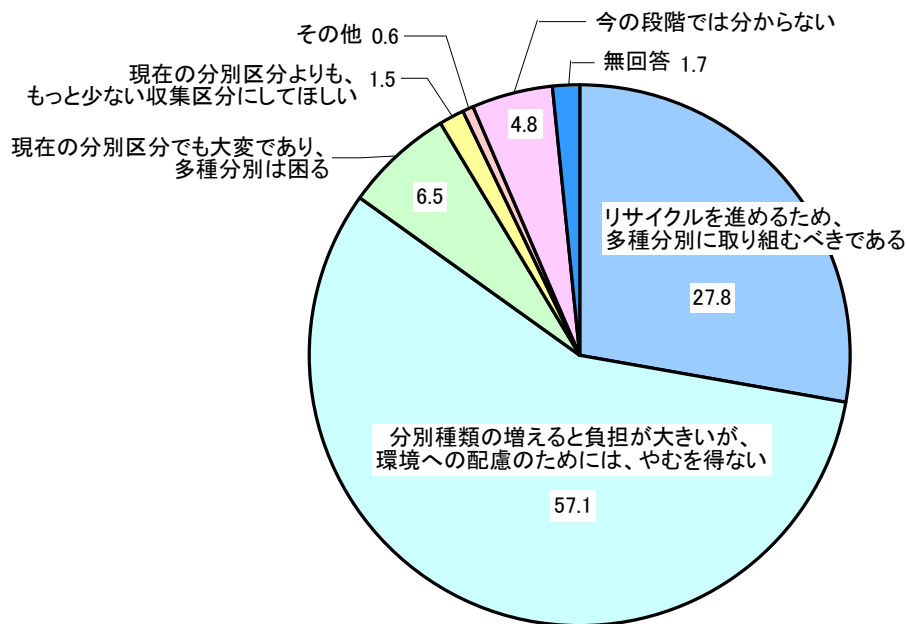
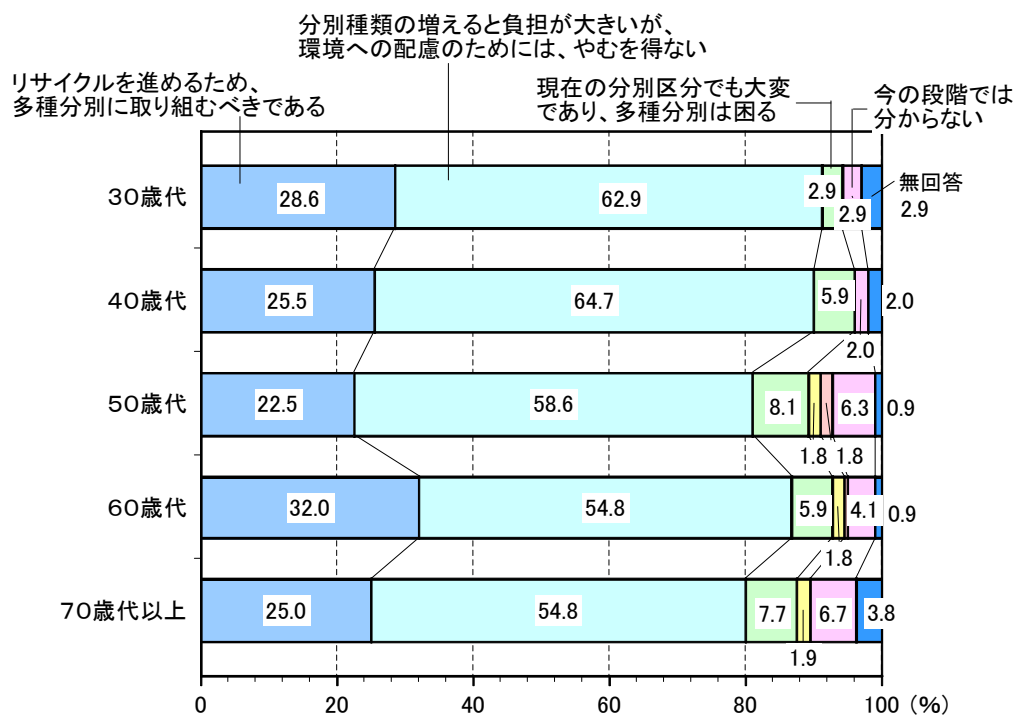


図2-32 「プラスチック製容器包装」や「ペットボトル」の区分増加への意向（年代別）



## 2) プラスチック製容器包装の排出ルールへの理解

プラスチック製容器包装を自治体が回収する場合の排出時のルールについて質問しました。回答者全体では図2-33に示すとおり、「リサイクルを進めるには、当然必

要な排出ルールと思う」（約24%）、「かなり負担を感じるが、習慣として身に付けば何とかかなと思う」（約57%）を合わせた意見は約81%を占めていました。

一方、「リサイクルは重要だが、このように大変な作業をしてまで分けてたくない」は約14%を占めていました。なお、その他の意見の主な内容は、「排出ルールの内容によっては無理なものもある」、「なんでも洗うと、洗剤を使うことによって川を汚す」などでした。

年代別には、図2-34に示すとおり、年代による傾向はあまり見られませんでした。30歳代で「リサイクルを進めるには、当然必要な排出ルールと思う」、「かなり負担を感じるが、習慣として身に付けば何とかかなと思う」を合わせた意見が他の年代に比べ高くなっていました。

図2-33 プラスチック製容器包装の排出ルールへの理解

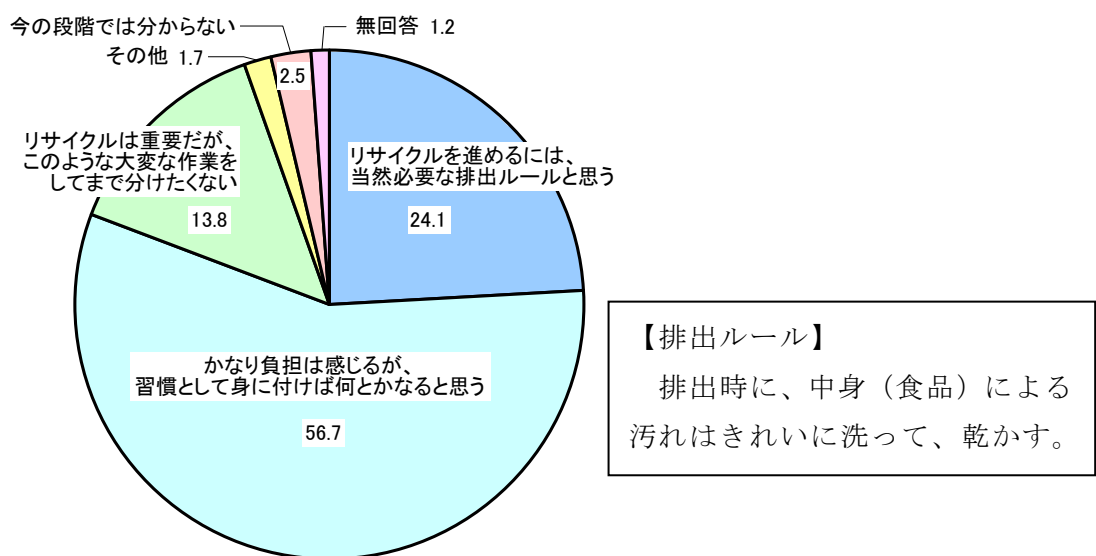
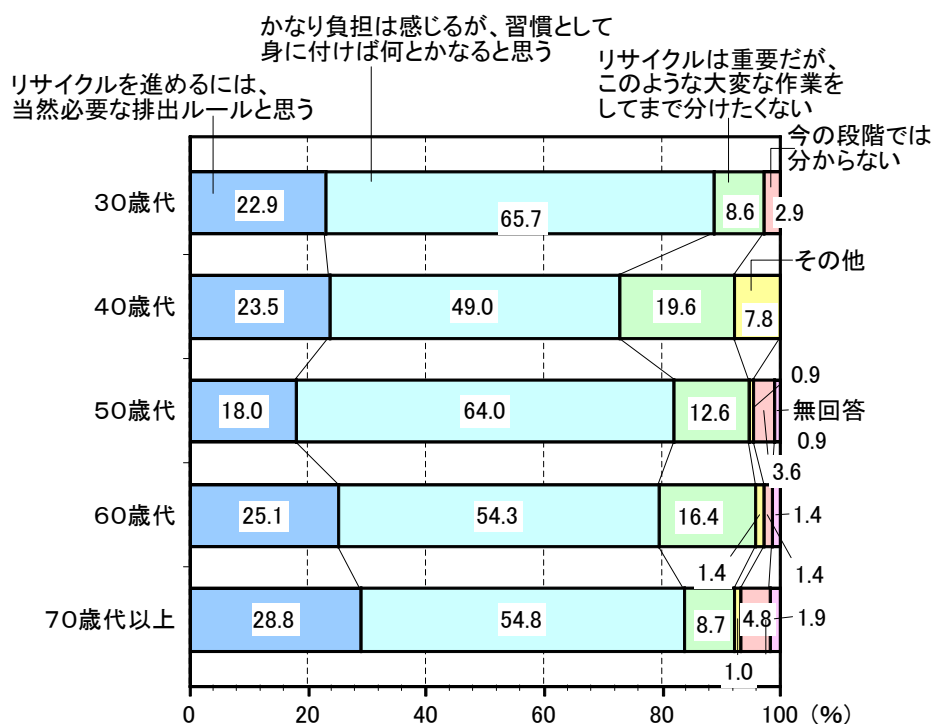


図2-34 プラスチック製容器包装の排出ルールへの理解（年代別）



### 3) 多種分別を導入する場合に考慮すべき事項

多種分別を導入する場合に重要と考えられる事項について質問しました。回答者全体では、図2-35に示すとおりです。「分別方法について、丁寧なパンフレット等を全戸配布する」が約76%で最も高く、「分けたごみがどのようにリサイクルされているかを市民に伝える」(約57%)、「分別方法や収集頻度など市民の意見を十分聞く」(約40%)、「分別方法について、地域における説明会や学習会を実施して、その浸透を図る」(約37%)と続いています。なお、その他意見の主な内容は、「高齢者に対する配慮」、「パンフレットより、施設の見学やビデオを地域や家庭でみてもらうようにする」、「分別することの必要性やごみ処理やリサイクルに係る費用などを市民に知らせる」などでした。

年代別には、図2-36に示すとおり、どの年代でも「分別方法について、丁寧なパンフレット等を全戸配布する」、「分けたごみがどのようにリサイクルされているかを市民に伝える」が高くなっていました。また、50歳代以上では「分別方法について、地域における説明会や学習会を実施して、その浸透を図る」が比較的高い傾向がありました。

図2-35 多種分別を導入する場合に考慮すべき事項(複数回答)

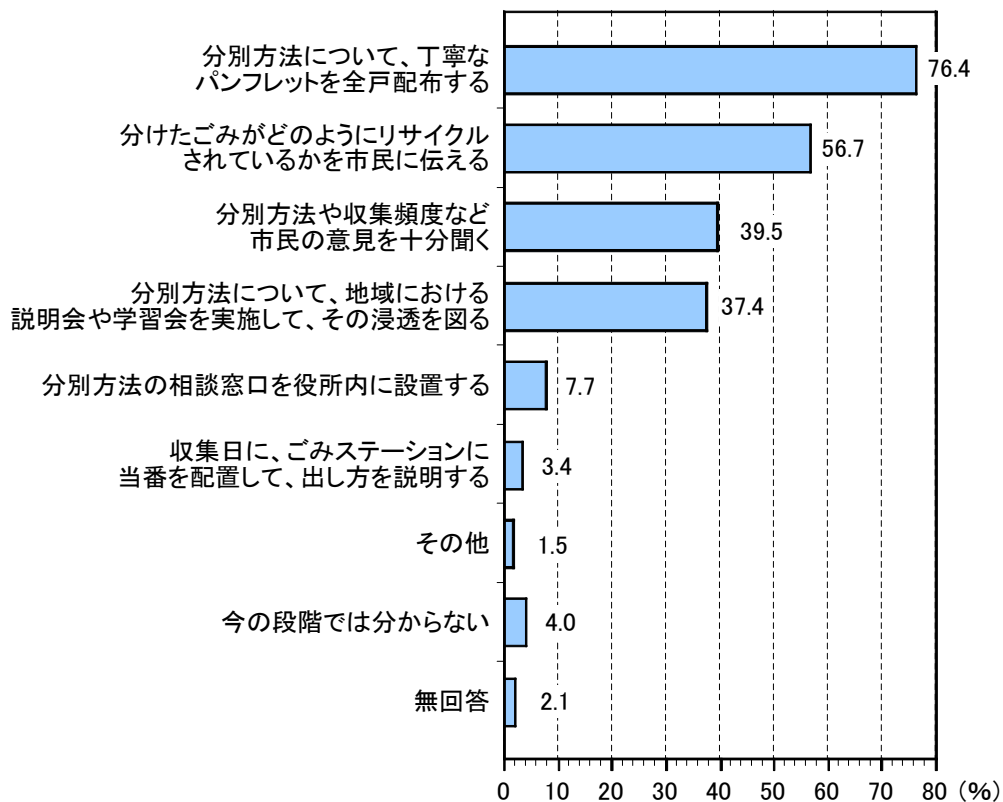
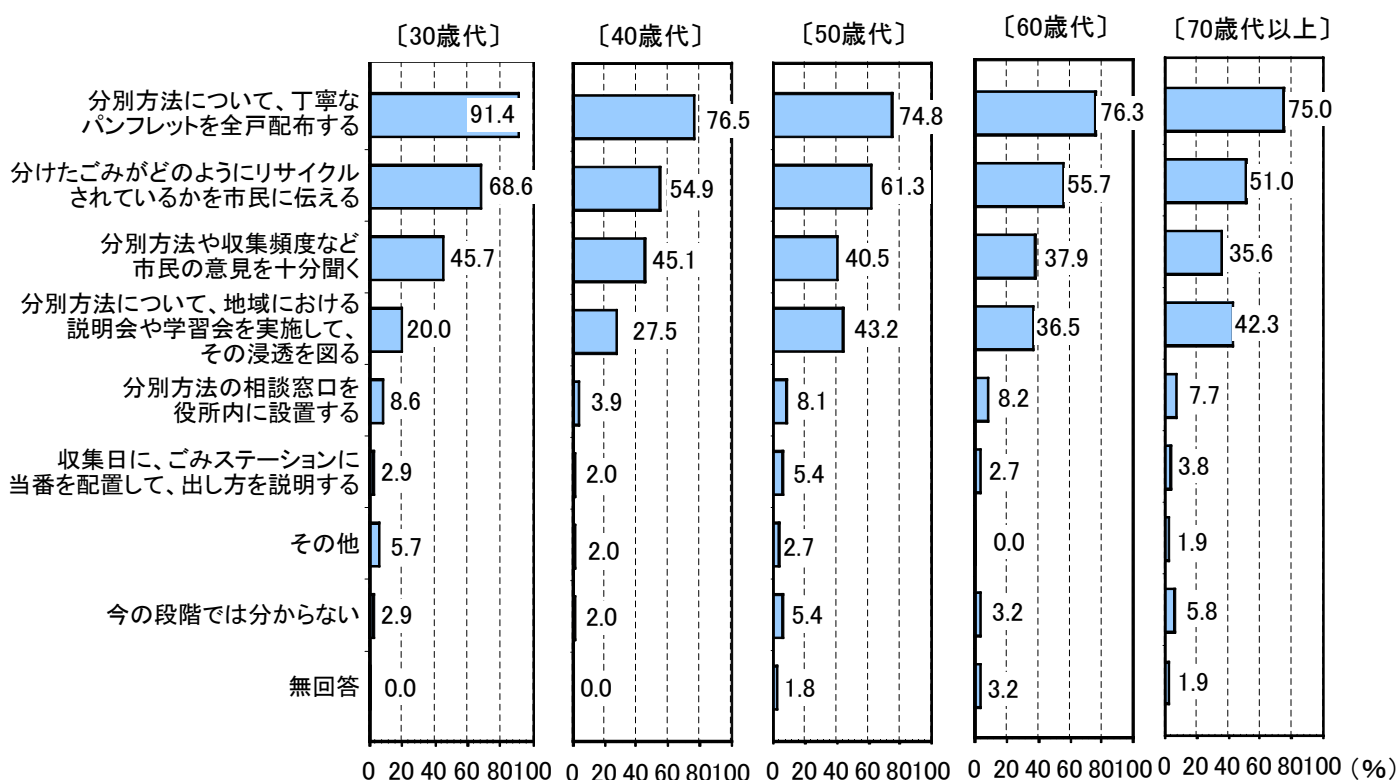


図 2-36 多種分別を導入する場合に考慮すべき事項（年代別 複数回答）



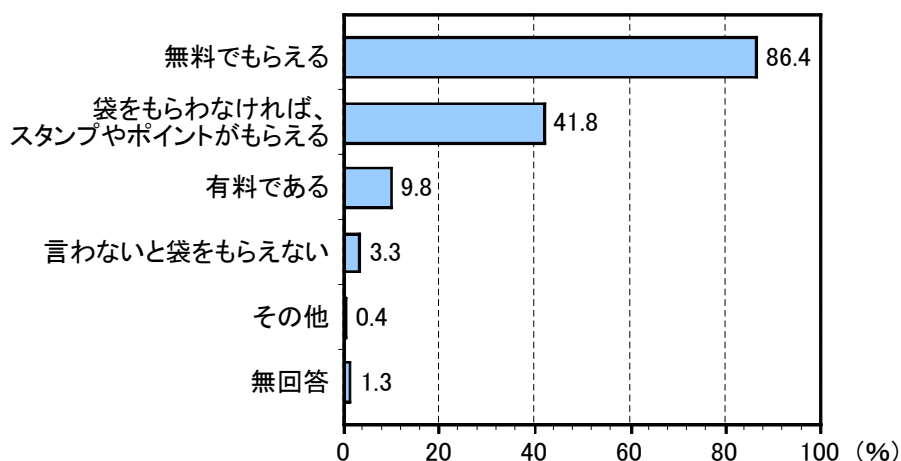
## 2-7 事業者に望むごみ減量化・リサイクルのための取り組みについて

### (1) レジ袋（手提げ用ポリ袋）について

#### 1) 日頃買い物をするスーパー等のレジ袋への対応

日頃買い物をしているスーパー等でのレジ袋の渡し方について質問しました。回答者全体では、図 2-37 に示すとおり、「無料でもらえる」が約 86%、次いで「袋をもらわなければ、スタンプやポイントがもらえる」が約 42%でした。「有料である」も約 10%ありました。

図 2-37 日頃買い物をするスーパー等のレジ袋への対応（複数回答）



## 2) 有料制やスタンプ制についての意見

レジ袋の有料制やスタンプ制についての考えを質問しました。回答者全体では、図2-38に示すとおり、「ごみの減量化や資源の有効利用の面から、もっと拡大すべきである」が約54%で最も高く、次いで「商品の量に応じて適切な枚数の手さげ袋を買い物客に渡す等、渡し方に気を付ければよい」が約22%、「手さげ袋は販売店のサービスであり、有料制やスタンプ制の導入はおかしい」が約12%でした。

なお、その他の主な意見としては「有料化の値段をもっと高くする」、「買い物袋持参者に割引を実施する」などでした。

年代別には、図2-39に示すとおり、年代が低いほど「ごみの減量化や資源の有効利用の面から、もっと拡大すべきである」への回答割合が高くなっていました。

図2-38 有料制やスタンプ制についての意見

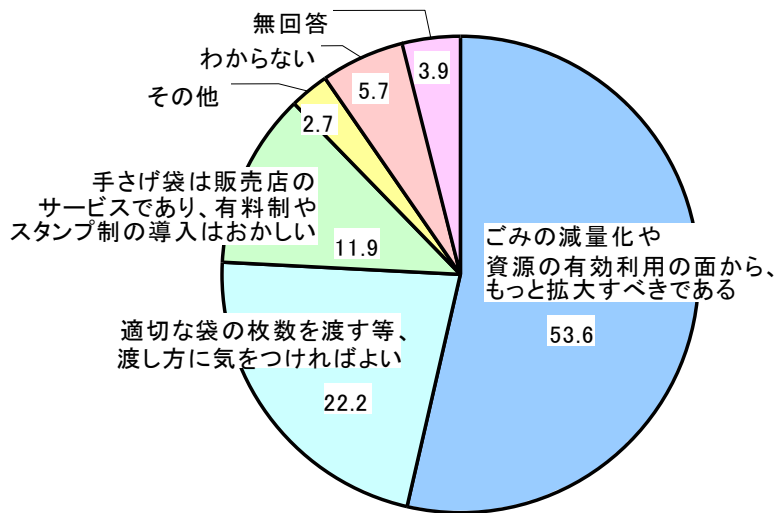
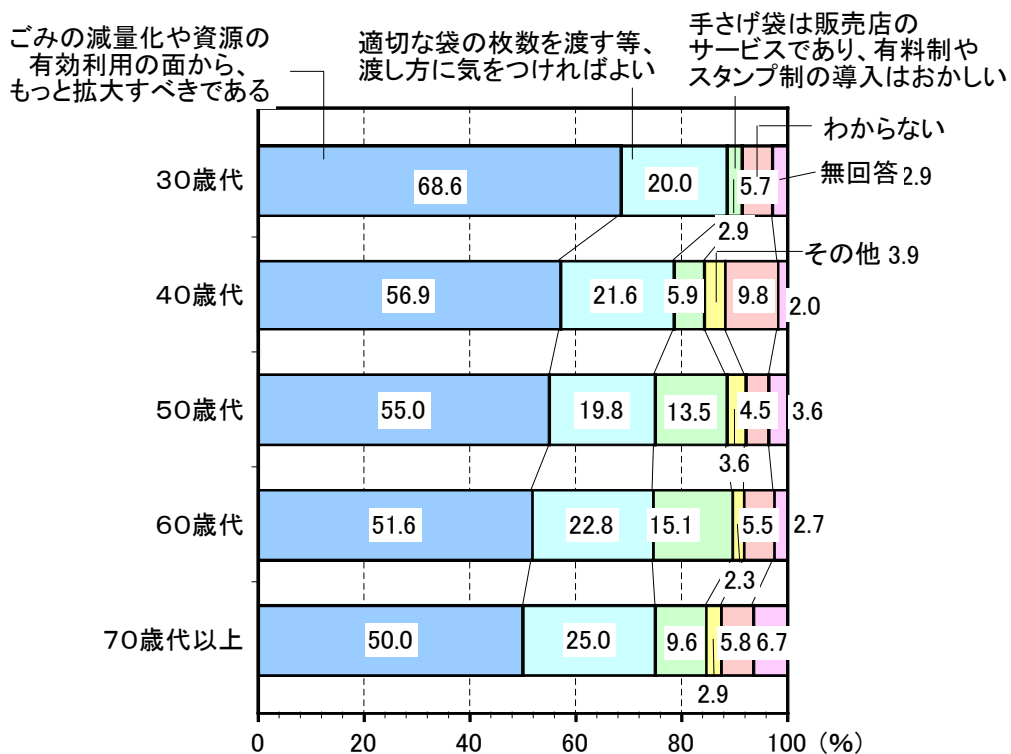


図2-39 有料制やスタンプ制についての意見（年代別）



### 3) 行きつけのお店で、レジ袋が有料化された場合の行動

行きつけのお店で、レジ袋が5～10円に有料化された場合の行動を質問しました。回答者全体では、図2-40に示すとおり、「入れ物を持って買い物に行く」が約81%を占めました。「買い物をする店を変える」は約8%でした。なお、その他の主な意見は「必要に応じて買う」などでした。

年代別には、図2-41に示すとおり、30歳代から60歳代では年代が高いほど「買い物をする店を変える」が高くなっていった一方、30歳代から40歳代では、「入れ物を持って買い物に行く」がやや高くなっていました。

図2-40 行きつけのお店で、レジ袋が有料化された場合の行動

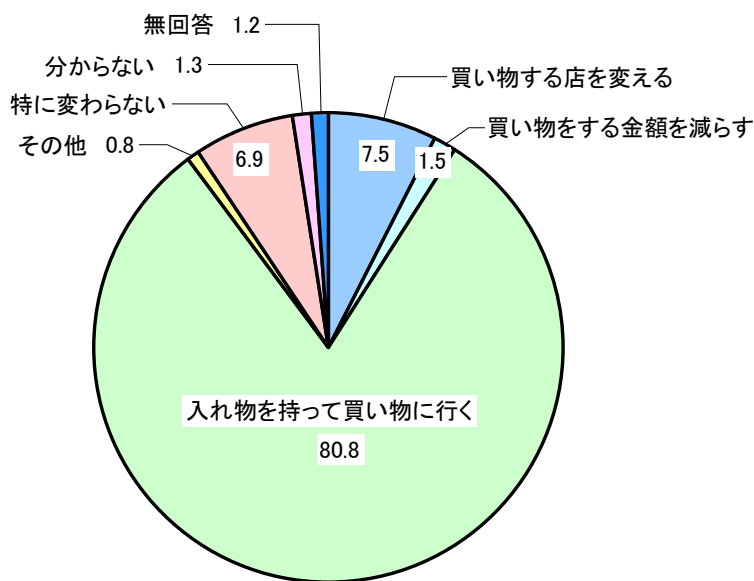
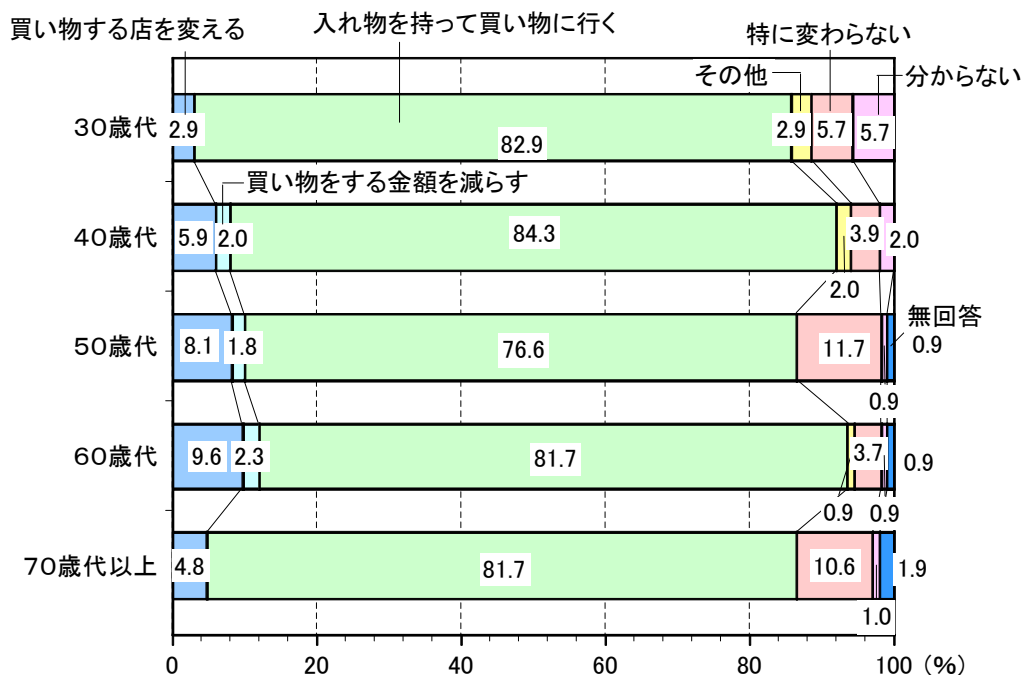


図2-41 行きつけのお店で、レジ袋が有料化された場合の行動（年代別）



## (2) スーパーマーケット等の取り組みへの期待

スーパーマーケット等へどのような取り組みを望むか質問しました。回答者全体では、図2-42に示すとおりです。「商品についてくる容器や包装を減らす工夫をする」が約64%で最も高く、「ペットボトル、(発泡)トレイ等の店頭回収を積極的に行う」が約50%、「買い物袋持参者に対して、市内共通のスタンプ制の導入や金券などの発行をする」が約43%となっていました。なお、その他の主な意見としては「製造者、販売者がコストダウンの見地から取り組みを検討する」、「店頭回収利用に対してポイントをつける」、「マイバッグ持参者には割引する」などでした。

図2-43には、男女別の回答状況を示しました。回答者全体で回答割合が高かった取り組みについては、「商品についてくる容器や包装を減らす工夫をする」が女性で回答割合が高く、「ペットボトル、(発泡)トレイ等の店頭回収を積極的に行う」が男性で回答割合が高くなっていました。

図2-42 スーパーマーケット等の取り組みへの期待（複数回答）

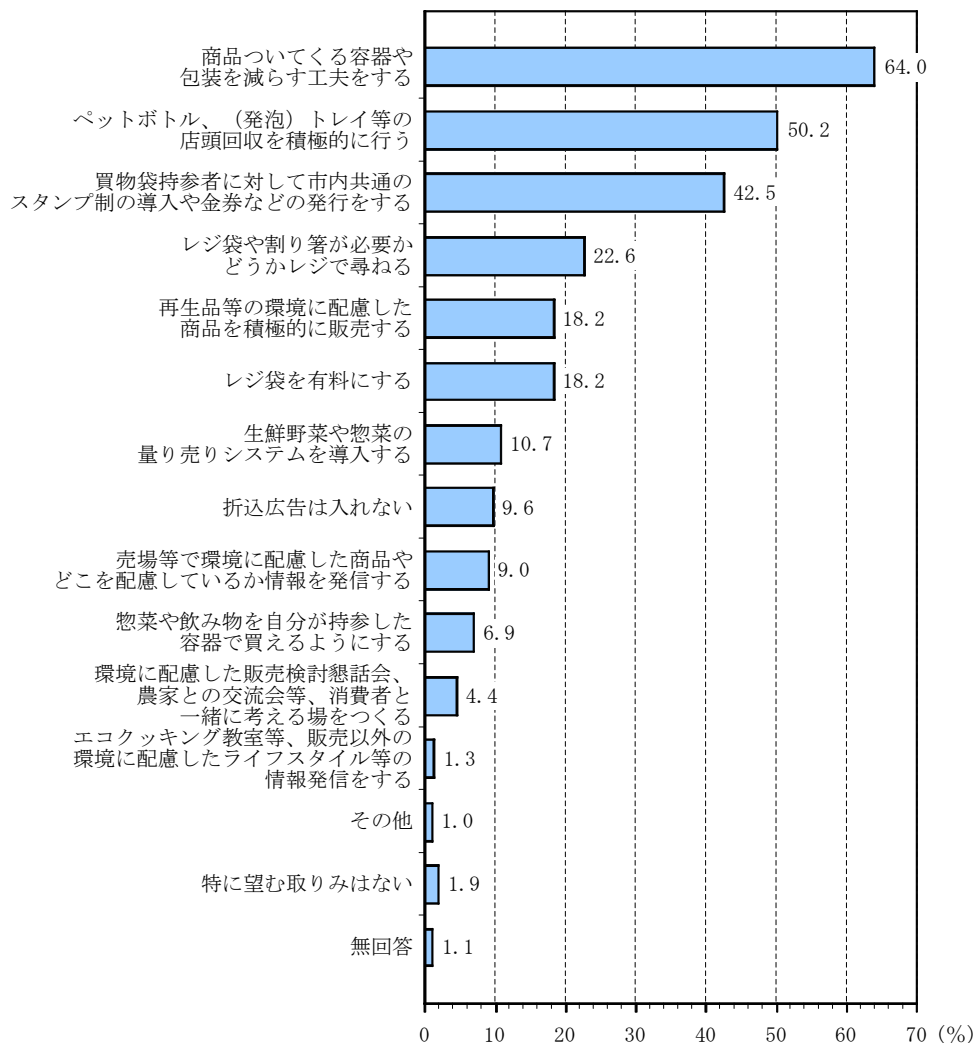
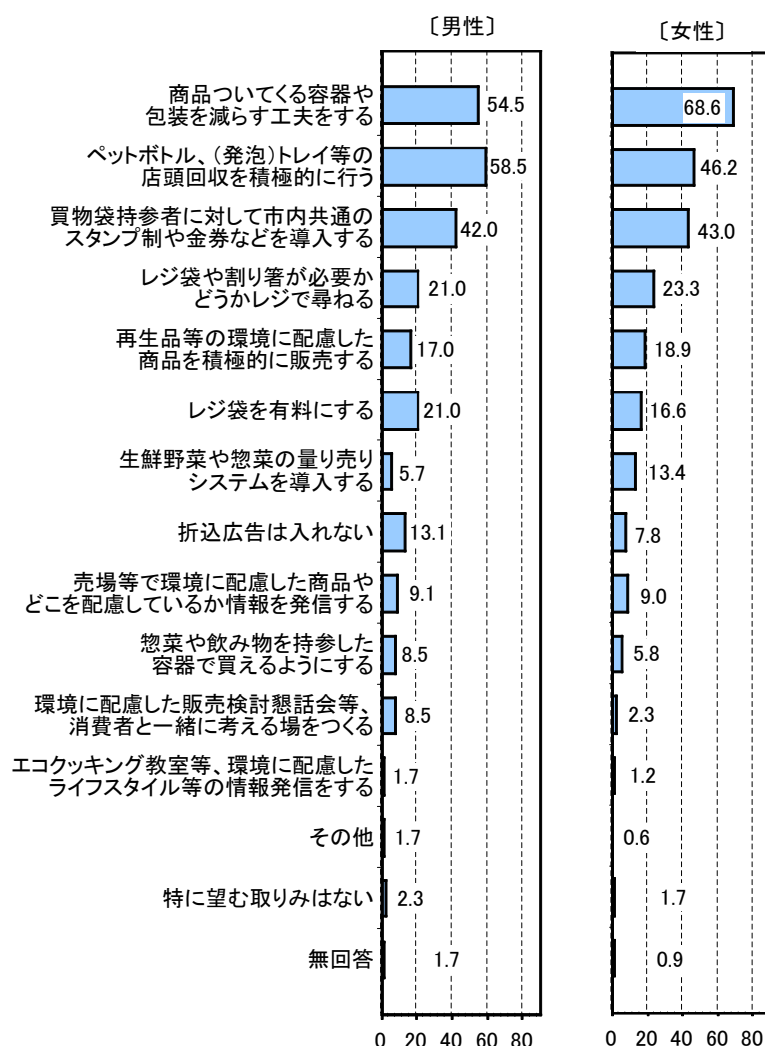


図 2-43 スーパーマーケット等の取り組みへの期待（男女別 複数回答）



## 2-8 家庭から出るごみの収集と処理費用について

### (1) 分別収集による費用負担に対する意見

分別収集して資源化を推進するためには、手間隙とコストがかかることに対する考えを質問しました。回答者全体では、図 2-44 に示すとおり、「市民は分別の徹底、事業者は包装が少ない売り方や製品の修理体制の整備など、各関係者が各々負担をして、手間隙やコストを極力削減し、資源化を推進すべき」が約 59% で最も高く、次いで「ごみの資源化による資源の有効利用や地球温暖化防止のためには、手間隙やコストがかかってもやむを得ない」が約 16%、「資源化一辺倒ではなく、手間隙やコストのあまりかからない品目だけの資源化を進め、それ以外は焼却処理をするなど、対応方法を選択すべき」が約 14% などとなっていました。なお、その他の主な意見としては「ごみの種類・ごみ収集—中間処理—最終処分までのコストと、分別をしなかった場合の同様の処理コスト、さらに環境に与える負荷までを含めたコストをわかりやすく市民に伝える工夫が必要」などがありました。

年代別には、図 2-45 に示すとおりで、30 歳代、40 歳代では「市民は分別の徹底、事業者は包装が少ない売り方や製品の修理体制の整備など、各関係者が各々負担をして、手間隙やコストを極力削減し、資源化を推進すべき」が、50 歳代以上では「資源化一辺倒ではなく、手間隙やコストのあまりかからない品目だけの資源化を進め、そ



れ以外は焼却処理をするなど、対応方法を選択すべき」が他の年代より高くなっていました。

図 2-44 分別収集による費用負担に対する意見

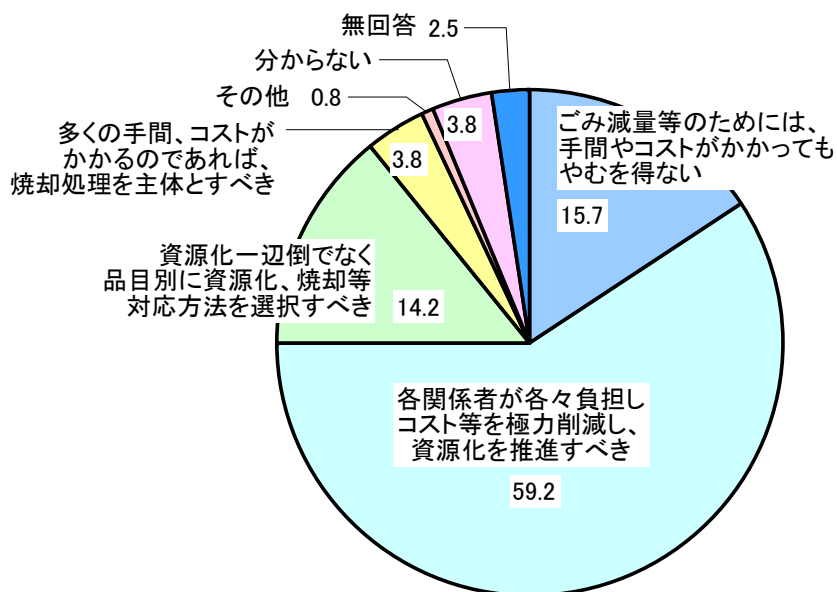
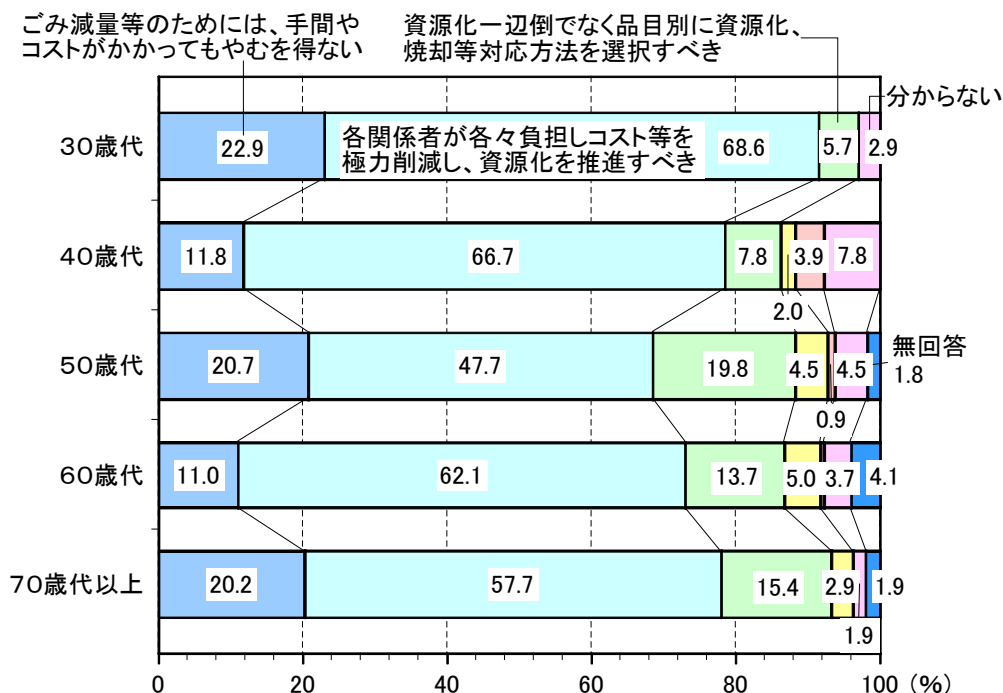


図 2-45 分別収集による費用負担に対する意見（年代別）



## (2) 「粗大ごみ」の収集と処理の費用負担に対する意見

「粗大ごみ」の収集と処理の費用負担に対する考えを質問しました。回答者全体では図 2-46 に示すとおりで、「ごみ処理費用の負担の公平性の確保などから、導入に賛成である」(約 12%)、「どちらかというとな賛成である」(約 9%)、「費用負担は止むを得ないが、実施時期や手数料等は、周辺都市の動きと合わせるべき」(約 22%)を合わせた意見は約 43%でした。一方、「どちらかというとな反対である」(約 17%)、「税を納めており、新たな負担は反対である」(約 32%)を合わせた意見は約 49%でし

た。なお、その他意見の主な内容は「導入と同時に十分に不法投棄対策」や「市民の理解を得てから実施」などでした。

年代別、男女別の回答は、図2-47に示すとおりです。年代別には、30歳代を除いて、「ごみ処理費用の負担の公平性の確保などから、導入に賛成である」、「どちらか」というと賛成である」、「費用負担は止むを得ないが、実施時期や手数料等は、周辺都市の動きと合わせるべき」を合わせた意見が、年代が高くなるほど高くなる傾向が見られました。また、男性で有料化に賛成の意向が高く、女性では反対の意向が高くなっていました。

図2-46 「粗大ごみ」の収集と処理の費用負担に対する意見

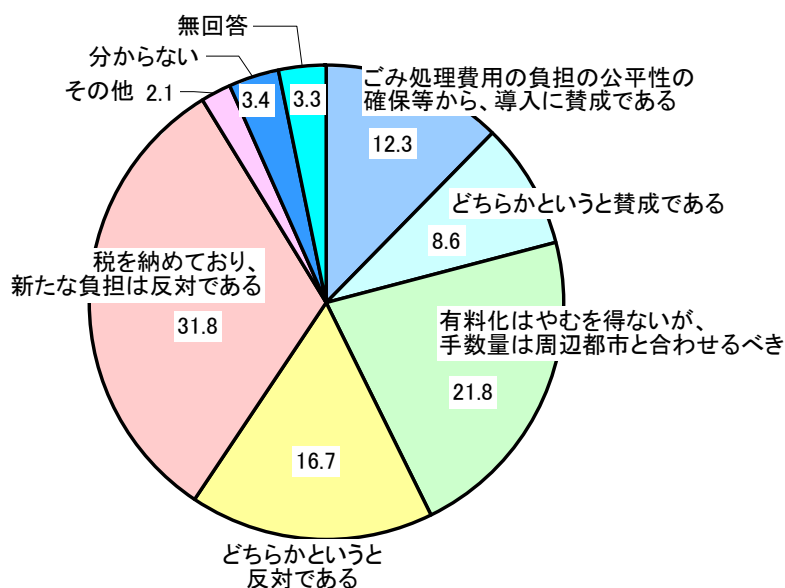
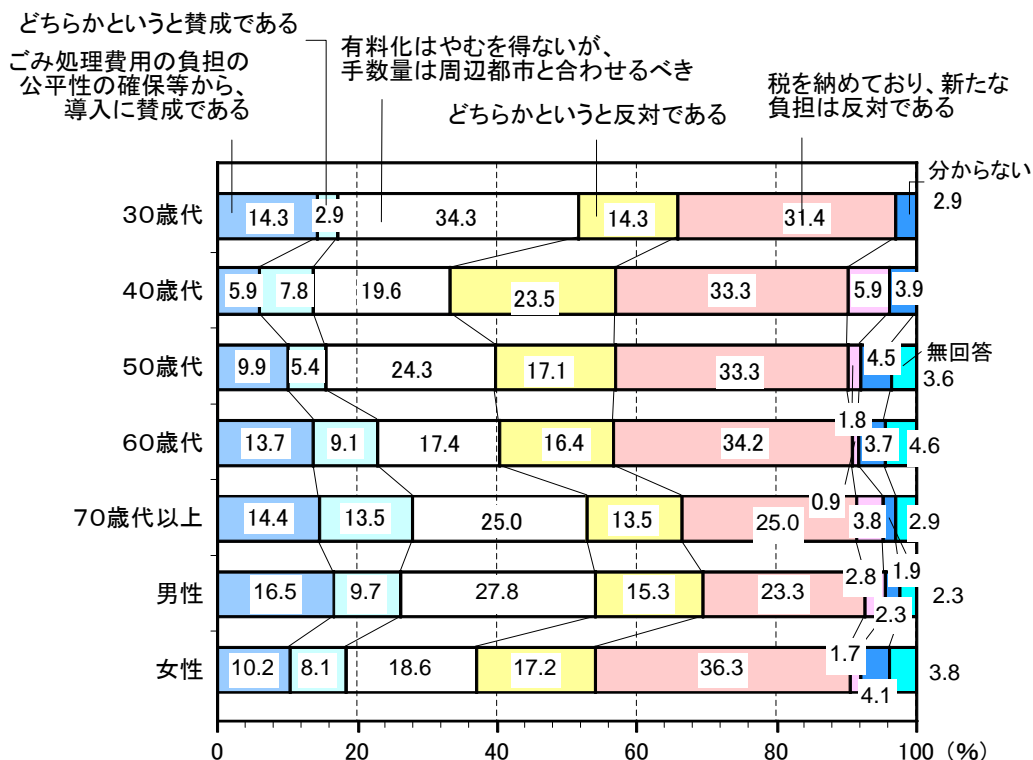


図2-47 「粗大ごみ」の収集と処理の費用負担に対する意見（年代別 男女別）



(3) 「可燃ごみ」の収集と処理の費用負担に対する意見

「可燃ごみ」の収集と処理の費用負担に対する考えを質問しました。回答者全体では

図2-48に示すとおりで、「ごみ処理費用の負担の公平性の確保などから、導入に賛成である」(約6%)、「どちらかという賛成である」(約4%)、「費用負担は止むを得ないが、低所得者等への配慮を行うべき」(約13%)を合わせた意見は約24%でした。一方、「どちらかという反対である」(約28%)、「税を納めており、新たな負担は反対である」(約42%)を合わせた意見は約70%でした。なお、その他の主な意見の内容は「導入をする場合は不法投棄対策の実施」や「家庭や地域での生ごみの資源化を有料化導入とセットで考える」などでした。

年代別、男女別の回答は、図2-48に示すとおりです。年代別には、「粗大ごみ」とほぼ同様の傾向が見られ、30歳代を除いて、有料化に賛成の意向は年代が高くなるほど高くなる傾向が見られました。また、男性で有料化に賛成の意向が高く、女性では反対の意向が高くなっていました。

図2-48 「可燃ごみ」の収集と処理の費用負担に対する意見

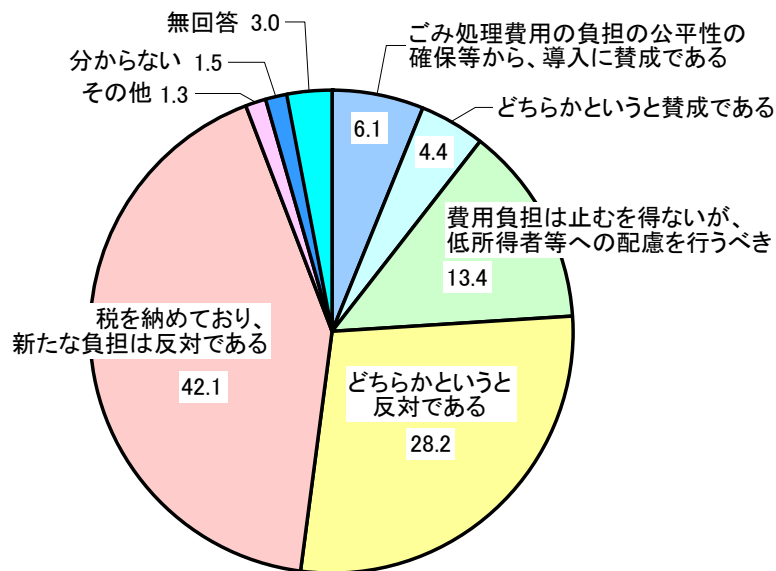
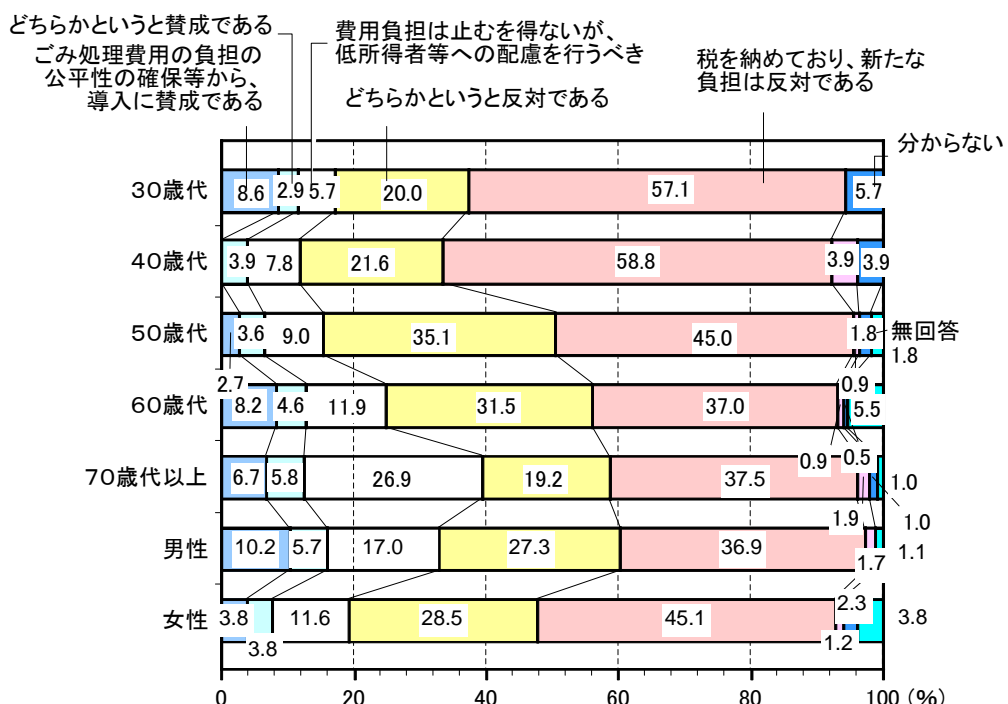


図2-49 「可燃ごみ」の収集と処理の費用負担に対する意見 (年代別 男女別)



## 2-9 市民啓発・活動拠点施設に必要な機能について

建て替えを進めている廃棄物処理センターに併設する市民啓発・活動拠点施設としてどのような機能が必要か質問しました。回答者全体では、図2-50に示すとおりです。必要な機能として、「不用品の交換情報を提供したり、展示品を購入できる場所」が約40%で最も高く、次いで「地域のリサイクル活動について相談や情報提供を受けられる場所」が約34%、「ペットボトル、充電式電池などの回収拠点」が約27%、「地域のリサイクル活動をする時の集会や学習の場所」が約26%となっていました。なお、その他の主な意見は「廃食用油や牛乳パックの回収拠点」などでした。

年代別、男女別には、図2-51に示すとおりであり、年代別にそれほど大きな違いは見られませんでした。30歳代では「フリーマーケットの会場」、「牛乳パックの紙すきなど不用品の再生利用が体験できる場所」が他の年代に比べて高くなっていました。

また、男女別では、「地域のリサイクル活動について相談や情報提供を受けられる場所」、「ごみ問題や環境問題に関するシンポジウムや講習会の開催場所」は、男性の方が高く、一方、「フリーマーケットの会場」、「不用品の交換情報を提供したり、展示品を購入できる場所」は、女性の方が高くなっていました。

図2-50 市民啓発・活動拠点施設に必要な機能について（複数回答）

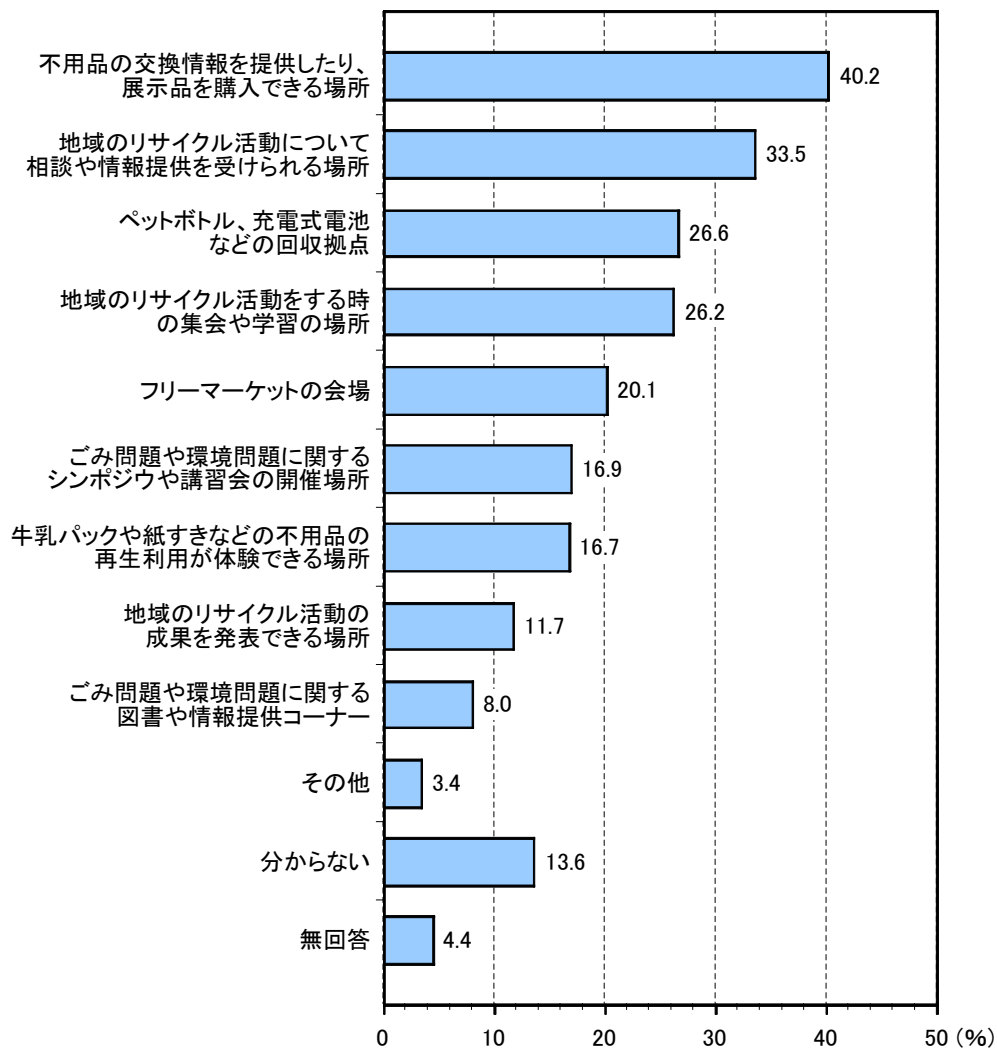
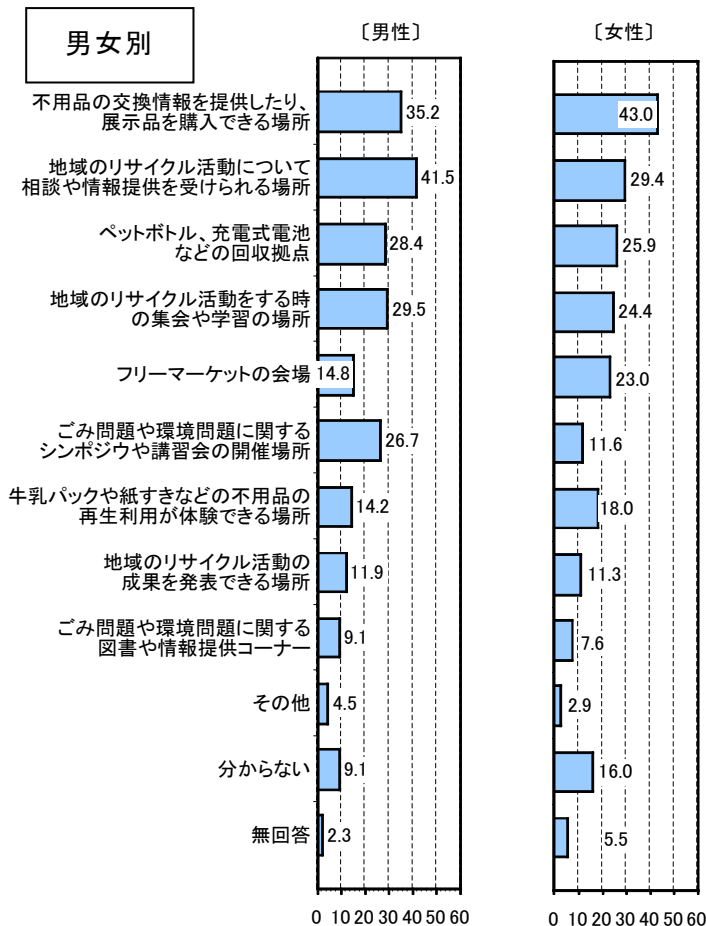
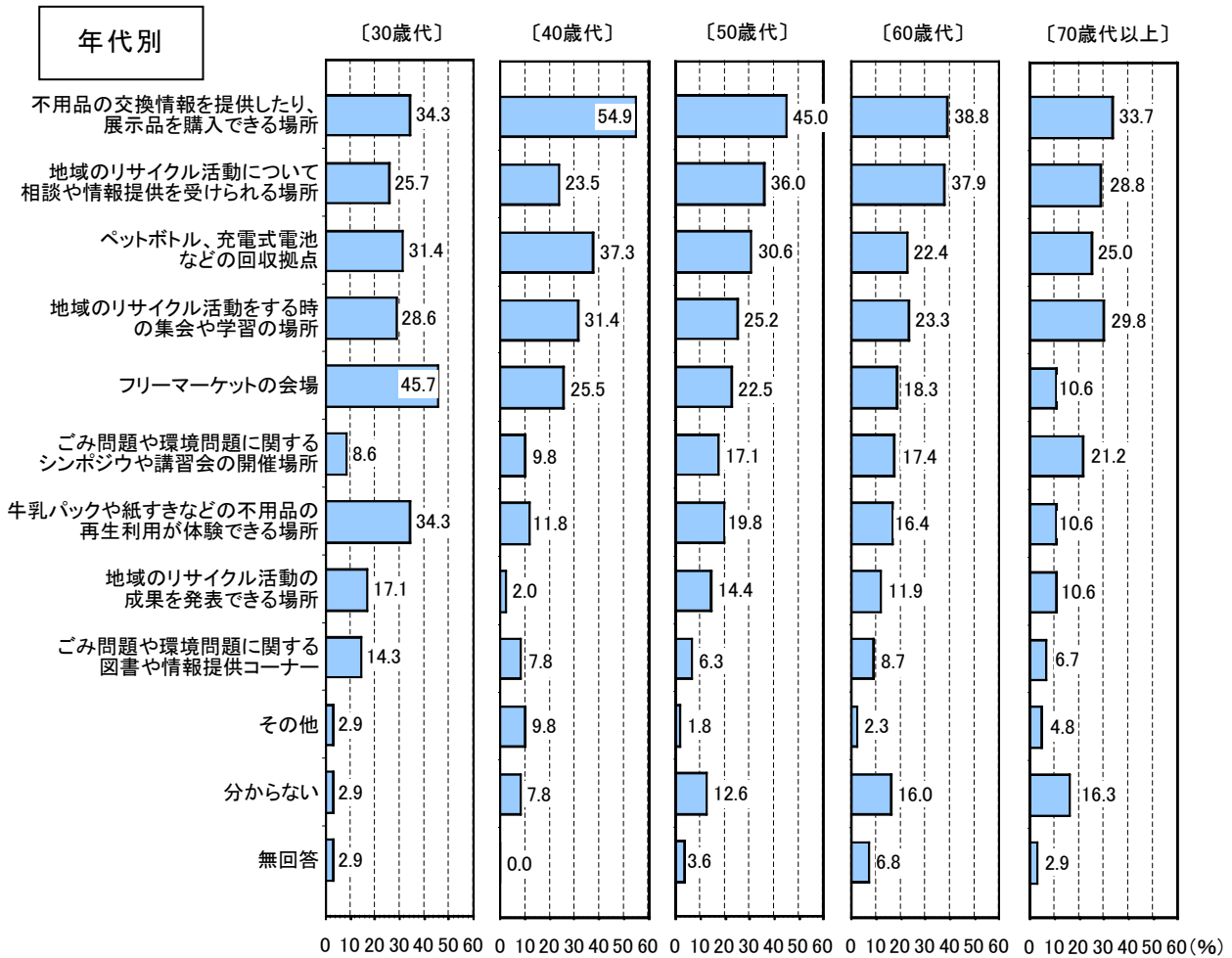


図 2-5-1 市民啓発・活動拠点施設に必要な機能について（年代別男女別 複数回答）



## 2-10 重要と思うごみ減量のための施策について

ごみに関して重要と思う施策について質問しました。回答者全体では、図2-52に示すとおりです。回答が多かった施策は、「ごみの減量化・リサイクルに関する環境教育、環境学習を積極的に行う」(約31%)、「各家庭で生ごみの資源化が進むようにする」(約27%)、「広報誌やパンフレットなどのごみに関する情報提供を増やす」(約27%)、「店頭回収、拠点回収を拡大する」(約26%)、「市民、事業者、市が協働でごみ減量事業に取り組む」(約25%)などでした。

なお、その他意見の主な内容としては「製造者責任の確立」、「ルールを守らない人への対策」、「市民が取り組みやすい施策」などでした。

年代別、男女別では、図2-53に示すとおり、年代別にそれほど大きな違いは見られませんでした。30歳代では「店頭回収、拠点回収を拡大する」、「市民、事業者、市が協働でごみ減量事業に取り組む」が他の年代に比べて高くなっていました。

また、男女別では、「ごみ減量やリサイクルに自発的に取り組むグループを積極的に支援する」、「資源ごみの分別収集を拡充する」「事業所に、ごみの分別排出などを徹底する」は、男性の方が高く、一方、「事業者の環境に配慮した経営を浸透させる」は、女性の方が高くなっていました。

図 2-5-2 重要と思うごみ減量のための施策について（複数回答）

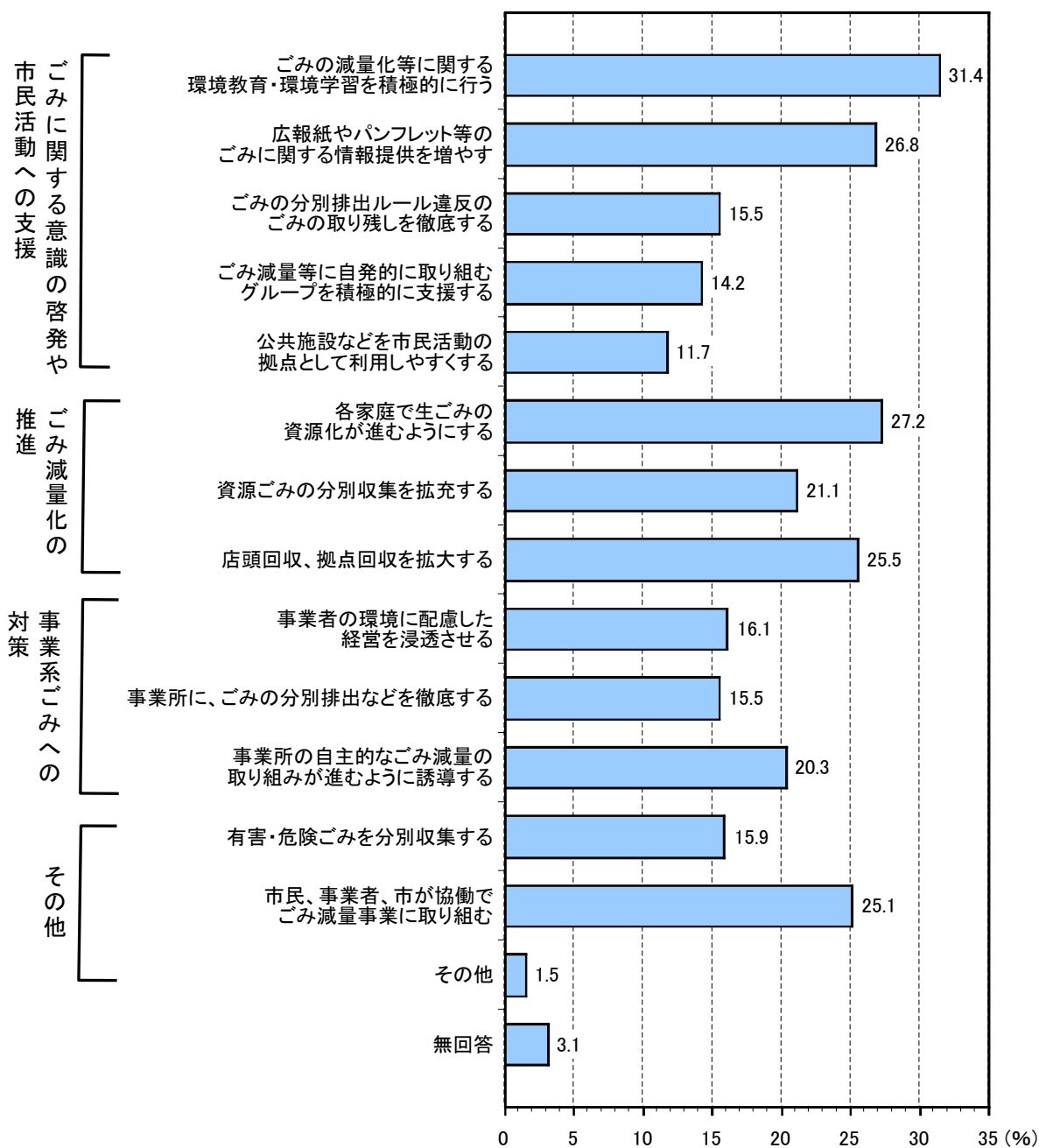
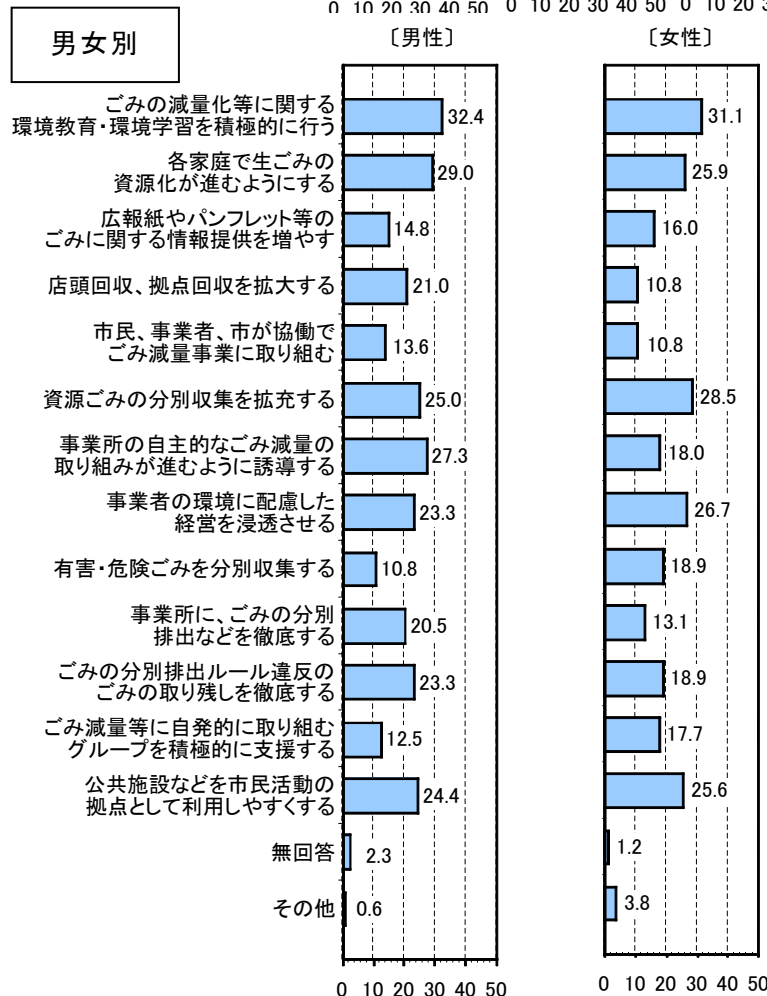
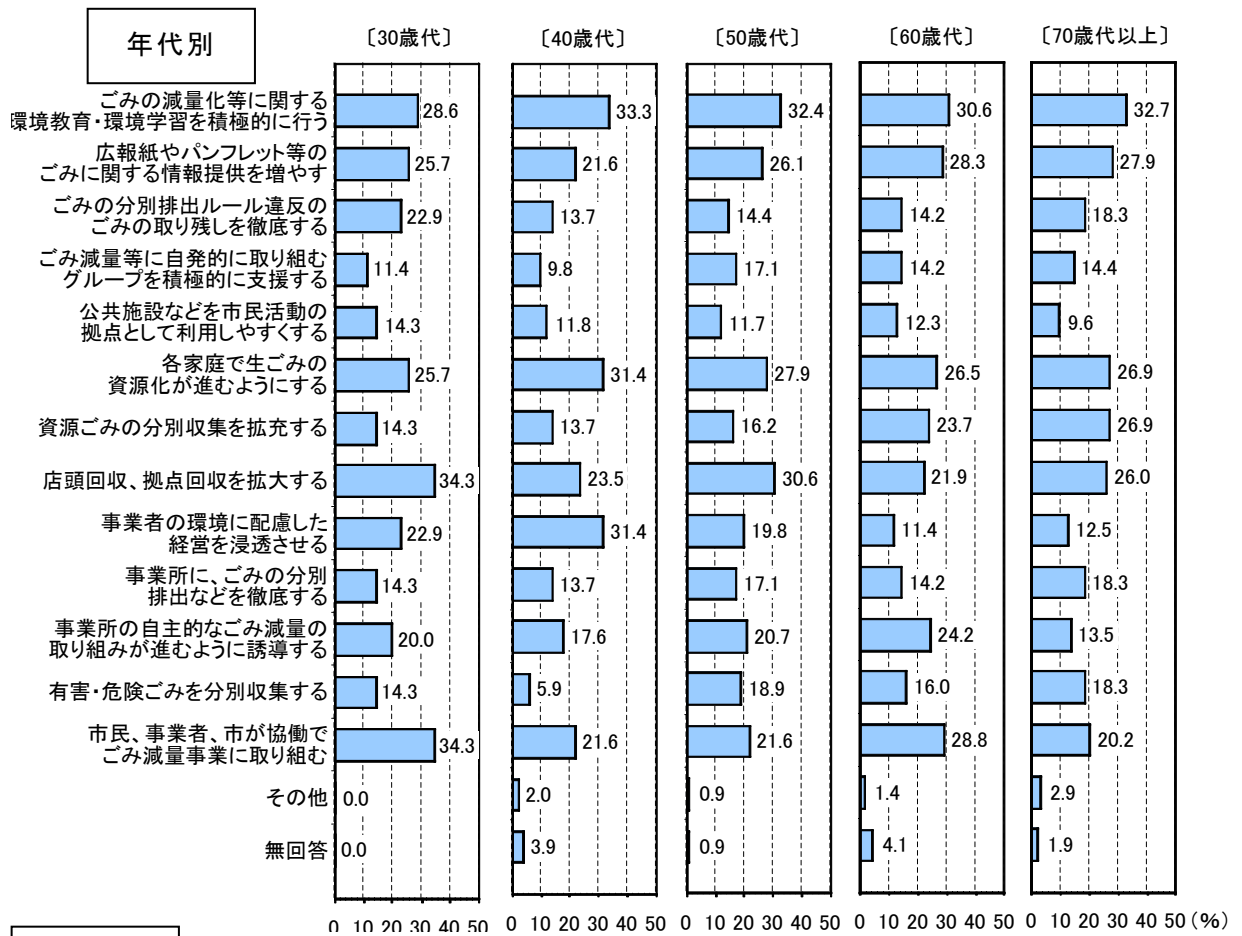


図2-53 重要と思うごみ減量のための施策について（年代別男女別 複数回答）





## 2-11 自由意見

回答者の方々から寄せられた自由意見については、資料2に掲載しました。